

2023（令和5）年度

# FD 活動報告書

宇都宮共和大学 シティライフ学部

自己点検・評価推進部会

FD 部会

2024年4月

---

## 目次

---

I	はじめに .....	1
II	2023年度学生による授業改善アンケート .....	2
III	学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組 .....	6
IV	FD・SD研修 .....	21
V	教員相互授業参観 .....	34
付録	宇都宮共和大学FD部会に関する内規 .....	49

## I はじめに

宇都宮共和大学シティライフ学部

学部長 田部井信芳

宇都宮共和大学シティライフ学部では、「宇都宮共和大学自己点検・評価委員会規程」に基づき自己点検・評価推進部会を設置している。自己点検・評価推進部会は教育研究の向上を図り、教育研究活動等の状況を向上させるための活動を組織的に支援することを目的としている。シティライフ学部では自己点検・評価推進部会において、PDCAの実施と取りまとめ、授業改善アンケート及び教員相互授業参観の実施等、自己点検・評価に関する業務を行っている。さらに、「自己点検・評価推進部会規程」に基づき、FD部会を設置し、教育・研究内容および教育方法の改善、個人の能力開発及び組織間の連携を推進し、組織的な職能開発に取り組んでいる。

本報告書は、2023年度に実施したFD活動の取り組みに関する報告である。

### 1. 学生による授業改善アンケートに基づく教職員の取り組み

学生による授業改善アンケートの結果を授業改善に反映させることを目的に実施している。2023年度学生による授業改善アンケート結果により、各教員が授業内容・方法、到達目標及び課題等について分析し、次年度に向けての授業改善の取り組みを報告書としてまとめている。

### 2. 2023年度FD研修会

教育内容・教育方法の改善を目的に、組織的な研修活動を実施している。2023年度はFD・SD研修会として「若人の特徴を活かした指導方法」、FD研修会として「シラバスチェックリストによる点検について」を実施した。後者のFD研修会では、シラバスを組織的に点検することにより、シラバスが適切に作成されていることを確認した。

### 3. 教員による相互授業参観

組織的な授業改善の取り組みの一つとして、教員による相互授業参観を実施している。教員相互の授業参観により、各教員が自分の授業の改善点等を考察し、報告書としてまとめている。

## II 2023年度学生による授業改善アンケート

2024年4月1日

学部長

シティライフ学部 教員各位

### 2024年度 シティライフ学部授業改善目標

#### 1. 授業改善に対する基本的な考え方

シティライフ学部では、授業科目の到達目標を達成するために、授業内容や教育方法について、毎年度検討を行っている。特に、1) 予習・復習の実践、2) 双方向授業、3) アクティブラーニングの活用等により、学生が主体となった授業を取り入れることに重点を置いている。学生が自分で考え、意見を述べることで、課題についての理解をより深めることができる。

到達目標を達成するために、学習の理解度を測定する必要がある。学習成果の可視化は学習の理解度を測る評価方法であり、授業改善において重要な要因である。各教員には、シラバス記載事項の確実な実行により、学習成果の達成の実現が求められる。

#### 2. シティライフ学部授業改善目標

シティライフ学部では教育目標の達成を目的に、教育内容及び教育方法の改善を図っている。授業改善は教育の質向上に向けた重要な要因であり、各教員が取り組むべき課題である。授業改善の一つとして、シティライフ学部ではループリックを導入し、成績評価の厳格化に取り組んできた。成績評価の基準をシラバスに明示することで、学生自身が自分の成績を確認することができる。昨年度から、シラバスチェックを実施し、教員相互で組織的にシラバスの確認を行っている。

シティライフ学部において今後取り組むべき課題は、学習成果の可視化である。学習成果の可視化は、学生が学んだことを理解し、学習したことを実践できなければならない。このため、学習成果の可視化の評価方法は多様であり、授業科目により異なる。各教員には、自分の授業科目に適した評価方法を見出す努力を期待する。

#### 3. シティライフ学部授業改善アンケート結果

##### (1) アンケート実施期間

春学期：2023年7月10日(月)から7月29日(土) (第13～15回の講義内)

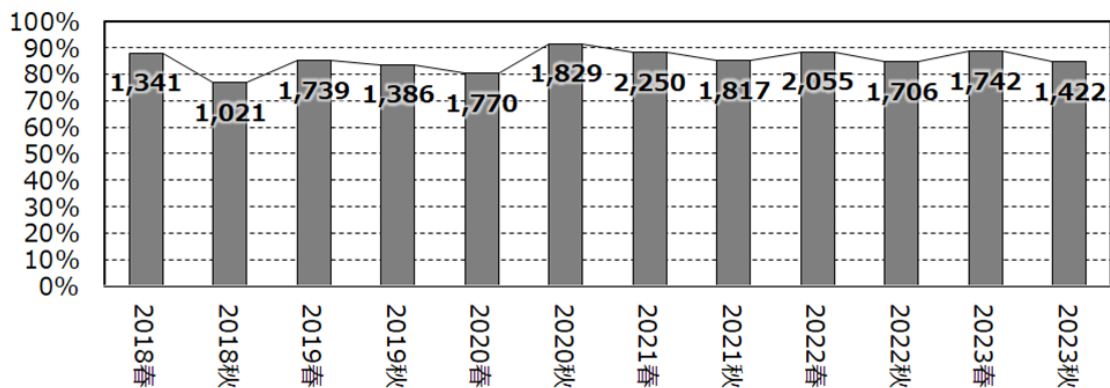
(入力終了日：2023年8月5日(土))

秋学期：2023年12月12日(火)から2024年1月19日(金)まで(第13～14回の講義内)

(入力終了期限：2024年1月26日(金))

(2) 回答率

春学期：88.7%（回答者数 1,742／受講人数 1,964\*）

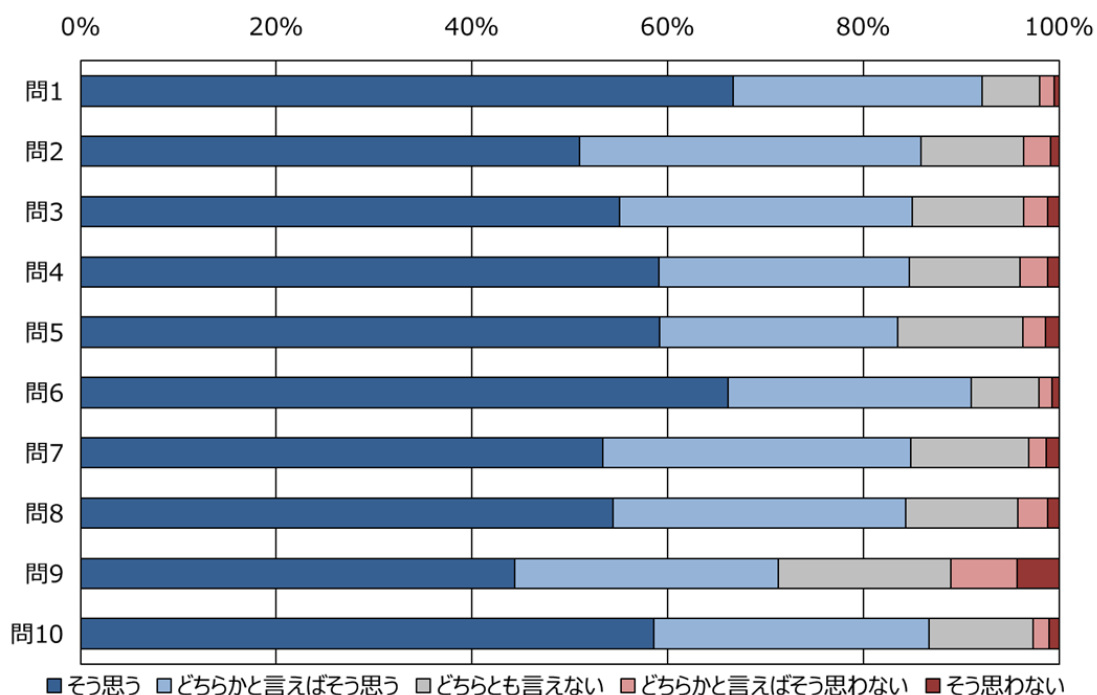


秋学期：84.7%（回答者数 1,422／受講人数 1,678\*） \*受験不可の者を除く

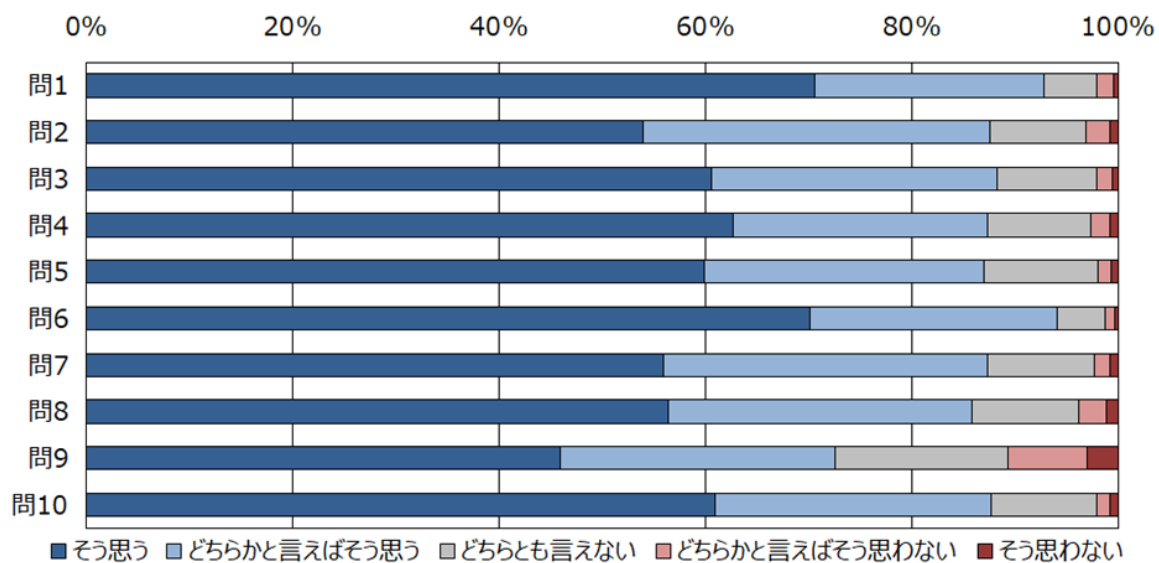
(3) 質問項目

I 授業について	II あなた自身の受講について
1. 教員の講義はよく聞き取れた	7. 私はこの授業に積極的な関心をもっている
2. この授業の内容はよく理解できた	8. 私は居眠りや携帯を見たりしなかった
3. 知的関心・興味が深まった	9. 私はこの授業の予習あるいは復習をした
4. 教員は質疑応答の機会を適切に作った	10. 私はこの授業を受講してよかった
5. マナーの悪い学生に対する指導は適切であった	
6. 教科書・資料などの教材は適切であった	

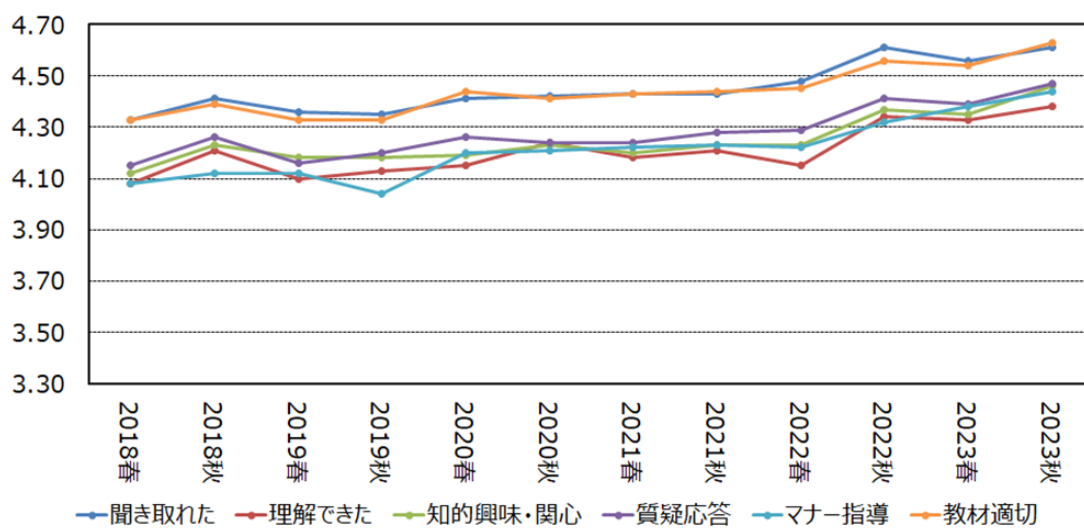
(4) 2023 年度春学期授業改善アンケート（全体）



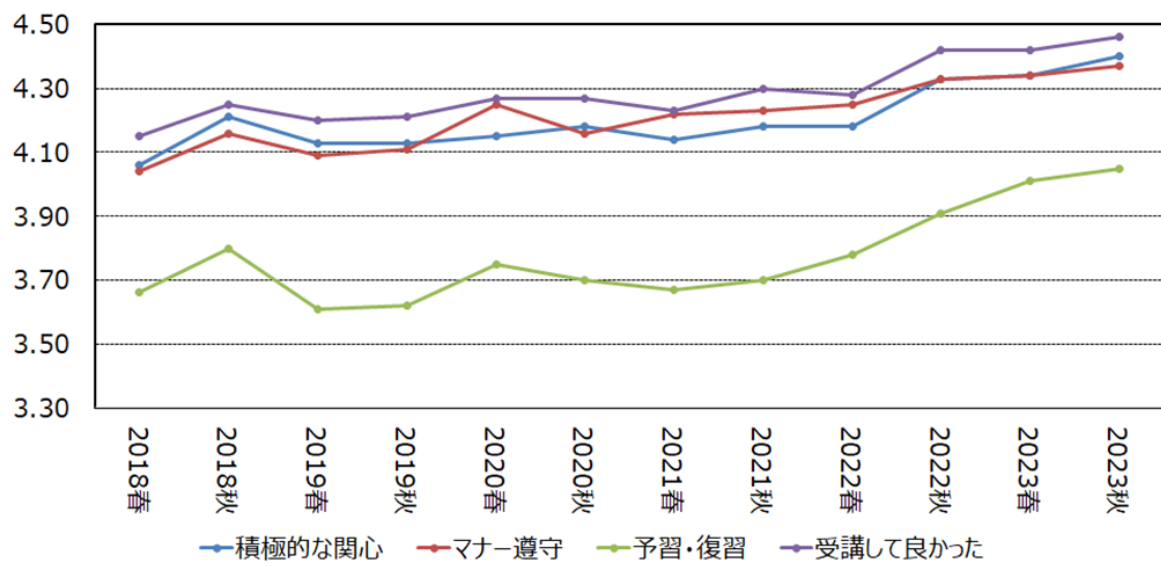
(5) 2023年度秋学期授業改善アンケート（全体）



(6) 各質問項目平均値の推移：I 授業について



(7) 各質問項目平均値の推移：II あなた自身の受講について



### Ⅲ 学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組

#### 学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2023年度）

宇都宮共和大学 シティライフ学部

教員氏名 田部井信芳

<p>① 科目の目的（到達目標）と授業内容・方法の改善の取り組み</p>
<p>経済学入門はこれから経済学関連の科目を学ぶ上で基礎となるものなので、基本的な経済理論の理解を目標にしている。世界経済論はグローバルな経済の理解を目的としており、実際の経済問題を例にして説明している。経済政策論は経済目標を達成するための手段について考える科目なので、実際の経済問題について経済学的な考え方をを用いて説明する。</p>
<p>② 学生による授業改善アンケート（結果）について</p>
<p>経済学入門は例年平均が学科平均より低いが、今年度も全体的に昨年の平均を上回った。世界経済論は概ね昨年と同じ傾向であった。公共経済学は受講者数が減少したが、全体的には昨年と同じ傾向であり、平均も学科平均に近かった。経済の基礎は昨年の平均を上回り、平均は学科平均より高かった。欧米経済論の平均は昨年より低下し、学科平均より低かった。</p>
<p>③ 授業の自己評価と考察</p>
<p>経済学入門は必修科目なので興味のない学生も履修するため、平均点は低くなる傾向にある。2年連続で平均が上昇したことは、一定の成果であると考え。世界経済論は受講者が増加しているが、もう少し平均点を高める工夫が必要である。経済の基礎は平均点が増加しており、授業改善の成果であると考え。</p> <p>評価方法は全科目についてシラバス通り行ったが、公共経済学の授業内容について1回分変更した。</p>
<p>④ 次年度に向けた授業改善の課題と具体的方策</p>
<p>経済学入門は理論なので抽象的ではあるが、現実の事例と関連づけて説明を行い、学生が興味を持てるよう努力する。世界経済論は複雑化する世界をわかりやすく説明し、学んだ知識が仕事や生活に役立つことを理解してもら。次年度から担当する経済政策論は、経済目標と手段についてわかりやすく説明し、経済学的な考え方を理解できるよう努める。</p>



## 学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2023年度）

宇都宮共和大学 シティライフ学部

教員氏名 寺内 孝夫

<p>① 科目の目的（到達目標）と授業内容・方法の改善の取り組み</p> <p>○本学の教員養成の理念に基づく「養成する教員像」の実現を図るため、科目毎の到達目標を策定し、履修者の学修目標及び評価の観点とした。</p> <p>○本年度は、特に内外の政治・経済・社会の動向や教育関係の新聞記事等を教材として頻繁に活用し、学校現場の今日的課題をより多く取り上げることができた。</p> <p>○主体的な学びとするため、レポート発表や作業学習の時間を計画的に設けた。 これについては、来年度も継続して取り組みたい。</p>
<p>② 学生による授業改善アンケート（結果）について</p> <p>○本年度の授業評価の対象（5名以上）は「社会科教育法Ⅱ」、「社会科・公民科教育法Ⅱ」、「事前・事後指導」、「教職実践演習」の4科目（3年生・4年生）であった。</p> <p>○アンケートからは、各科目とも講義の内容・レベル・方法等は適切であったと受け止めている。</p> <p>○授業の予習・復習の在り方については、引き続き検討していきたい。</p>
<p>③ 授業の自己評価と考察</p> <p>○評価については、各科目ともシラバス記載の通り、筆記試験とレポート（特に3年次は学習指導案及び模擬授業の内容も重視した）を中心に行った。</p> <p>○教職課程履修者も年々多様化してきている。</p> <p>【2023年度教職課程履修者数】 4年生：8名 3年生：8名 2年生：2名 1年生：0名</p>
<p>④ 次年度に向けた授業改善の課題と具体的方策</p> <p>1 「主体的、対話的で、深い学び」の視点に立った授業の改善 意見交換やグループ討議の時間を設けるなど、より活動的な授業となるよう、学習方法の改善に取り組む。</p> <p>2 クロームブックの利活用</p> <p>3 「履修カルテ」の作成と活用 I年次から卒業年次までの教職課程履修者の個人履修カルテを活用し、各自の学修の振り返りを通して、自己の学修課題を自覚させ、学修に関する意識改革に繋げていきたい。</p>

## 学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2023年度）

宇都宮共和大学 シティライフ学部

教員氏名 陣内雄次

<p>① 科目の目的（到達目標）と授業内容・方法の改善の取組み</p> <p>学生による発表、ディスカッション、ワークショップなど、アクティブラーニングを取り入れるよう心がけた。また、都市政策論ではフィールド調査（LRTと沿線住宅地開発の調査）を実施するとともに、その結果のSWOT分析を行った。</p>
<p>② 学生による授業改善アンケート（結果）について</p> <p>経年変化を見ると改善傾向が見て取れる。特に、都市政策論でその傾向が著しい。上記のとおり、フィールド調査やワークショップを取り入れたことが一因であると推察される。</p>
<p>③ 授業の自己評価と考察</p> <p>ワークショップなどアクティブラーニングを取り入れることが学生満足度の向上につながっていると推察されるため、今後も継続していきたい。</p> <p>授業内容と評価方法は概ねシラバス通りであった。</p>
<p>④ 次年度に向けた授業改善の課題と具体的方策</p> <p>継続して、アクティブラーニングを導入したい。ただし、グループワークの場合、積極的に参加する学生と無関心な学生の差が大きいことが課題である。この課題の改善に取り組みたい。</p>

## 学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2023年度）

宇都宮共和大学 シティライフ学部

教員氏名 田上 富男

<p>① 科目の目的（到達目標）と授業内容・方法の改善の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 授業を理解しやすくするため、全ての授業において、講義内容をパワーポイントのスライドとして作成し提示するとともに、スライドのコピーをレジュメとして配布した。また、補足資料についてもできるだけ用意し、学生の理解促進を図った。</li><li>・ 学生が主体的に取り組み、実感を伴って学べるように、資料を基にした話し合い、事例に基づく話し合い、授業DVDの視聴、学習指導案の作成、模擬授業の実施などを行った。</li><li>・ 教師と学生のコミュニケーションを大切にし、できるだけ学生からの発言を引き出しながら授業を展開するよう心がけた。</li></ul>
<p>② 学生による授業改善アンケート（結果）について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 今年度は受講者数の関係で、評価対象となった科目は秋学期の教育原理だけであったが、教師の授業に対する評価は、各項目とも4.5前後で概ね学生からは肯定的に受け取られていると思われる。</li><li>・ 昨年度よりは評価が高くなってはいるが、やはり予習・復習に対する結果が4.0と他に比べて低かった。</li></ul>
<p>③ 授業の自己評価と考察</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 授業を理解しやすくするために行っている、講義内容をパワーポイントのスライドとして作成し提示することや、スライドのコピーをレジュメとして配布すること、また、補足資料についてもできるだけ用意して、分かりやすく解説したことなどが学生に肯定的に受け取られていると思うため、次年度もそれらを継続するとともに、学生の理解促進のために更に工夫改善に努めていきたい。</li><li>・ 学生の予習・復習については、シラバスに明示するとともにその必要性を示していくべきと考える。</li></ul>
<p>④ 次年度に向けた授業改善の課題と具体的方策</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 授業は教材研究の善し悪しに大きく左右される。次年度は新たに経済数学入門の授業が加わる。数学の授業は、問題の解答過程を理解できるようにすることが大切であり、そのためにはパワーポイントでの提示は避け、黒板とチョークでの授業が主となる。学生が授業内容に興味関心をもち、主体的に学習に取り組めるよう、基礎的な問題から順次難易度を高め、分かりやすい解説を心がけたい。</li><li>・ 教職科目においては、その特質を踏まえ、教育理論と学校現場で役立つ実践的内容の調和のとれた講義になるよう授業を組み立て進めていく。</li></ul>

## 学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2023年度）

宇都宮共和大学 シティライフ学部

教員氏名 和田 佐英子

<p>① 科目の目的（到達目標）と授業内容・方法の改善の取組み</p> <p>私が担当している科目（地方財政論Ⅰ・地方財政論Ⅱ、租税論・財政論・社会保障論、都市コミュニティ論）については、共通した到達目標がある。一つ目は、現状の課題の理解・制度理解・基礎的理論を理解することである。（DP1）二つ目は、学んだ知識や理解を通じて、課題解決のための方策を自分なりに考えられるようになるあるいは評価できるようになることである。（DP3）2点目のハードルは高いが、常時社会に関心を持ち、自分なりの視点をしっかり持つための基礎訓練を、これらの授業を通じて行っていきたいと考えている。</p> <p>特に、今年度の試験は、あえて「持ち込み可」の試験を実施し、知識を得たことより、その知識や理解を生かし、いかに、自分の課題解決に向けた方策につなげているかを評価して、成績評価を実施した。</p>
<p>② 学生による授業改善アンケート（結果）について</p> <p>学生による授業改善アンケートの評価結果は、平均すると、過去5年間において、ほとんどの項目で最も高かった。これは、今年度から、授業をより分かりやすくすることと、学生たちに予習・復習をさせるために、Classroomを積極的に活用した結果であると思う。</p>
<p>③ 授業の自己評価と考察</p> <p>授業相互参観の時に、昨年も今先生の授業を拝聴し、その時のグーグルフォームによる「振り返り」の方式が大変勉強になったので、今年度私も同様の「振り返り」を実施することにした。また、「基礎ゼミ」で、コロナ禍以降、若い先生たちと同じ水準でクロームブックを活用した指導を要求されたことが、大変良い刺激となり、Classroomを他の自分の講義でも、積極的に活用できるようになった。こうした授業改善努力を、今年度秋は、学生たちも少し評価してくれているような結果が出たのがうれしかった。30年以上同じ科目を講義しているが、こうした経験のおかげで、授業の根本となる講義内容や伝え方そのものを、今年度は、再考していきたい。</p>
<p>④ 次年度に向けた授業改善の課題と具体的方策</p> <p>租税論、財政論、地方財政論Ⅱ等、制度論や経済理論がメインで出てくる回は、学生たちの反応が悪いので、次年度以降は、特に、授業の予習に間に合うように、事前に講義資料をアップすること。復習のための課題等を出すようにすることを心がけていきたい。</p> <p>また、毎回実施している「振り返り」を、次回の講義の時間に、全体にフィードバックして、学生たちの反応をよりよくしていきたい。</p>

## 学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2023年度）

宇都宮共和大学 シティライフ学部

教員氏名 大石和博

<p>① 科目の目的（到達目標）と授業内容・方法の改善の取り組み</p> <p>■ 科目の目標（到達目標）</p> <p>学生自身の生活や地域社会の経済問題に関し、経済学を用いて考え抜く力を涵養すること</p> <p>■ これまでの授業内容の工夫点（努力点、改善点等）</p> <p>テキストを使用する科目については、テキストに記載された説明だけでは経済学と現実とがどうつながっているか、学生にはわかりにくい。そこで、新聞や雑誌の記事を用いて専門用語の解説を加えるとともに、経済学をどう利用すればよいかにも言及するようにしている。また、公務員採用試験や検定試験の過去問をできるだけ解き、授業内容と関係があることを強調している。毎回、授業開始時に「復習問題」を解かせ、授業の流れを把握できるようにしている。期末試験は主に「復習問題」から出題する旨、第1回目の授業で学生に伝え、授業に集中するインセンティブを与えている。受講者の学力や興味に応じて問題を選択している。テキストを使用しない科目についても同様に「復習問題」、公務員採用試験過去問等を解き、理解が深まるようにしている。</p>
<p>② 学生による授業改善アンケート（結果）について</p> <p>■ 2023年度授業評価アンケート（学生）結果</p> <p>平均点との相対評価</p> <p>評価が低いもの：問2・問3・問4・問7（経済の基礎、ミクロ経済学Ⅰ、環境経済学）</p> <p>評価が高いもの：問5（ミクロ経済学Ⅰ、ミクロ経済学Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ、環境経済学Ⅰ）</p> <p>問9（ミクロ経済学Ⅰ、ミクロ経済学Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ）</p> <p>■ これまでの傾向値</p> <p>総じて昨年度までと同様であった。</p>
<p>③ 授業の自己評価と考察</p> <p>シラバス通りに成績評価を行った。</p> <p>授業開始時に復習問題の解答・解説に時間を割くため、授業計画通りに行かないことがあったが、最終的には授業計画の範囲を終えることができた。</p> <p>授業中、受講マナーについて指導しており、評価が高かった。</p> <p>必修科目では受講者の関心・能力・態度等に差があるため、演習問題（特に計算問題）の解説に注意を払うべきだった。</p>
<p>④ 次年度に向けた授業改善の課題と具体的方策</p> <p>必修科目では評価が低かった項目があり、受講者の知的関心・興味が深まるよう教材を見直したい（初歩的な問題を増やすなど）。学生の理解度を測るために、双方向性のある授業になるよう心がけたい。</p>

## 学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2023年度）

宇都宮共和大学 シティライフ学部

教員氏名 松田勇一

<p>① 科目の目的（到達目標）と授業内容・方法の改善の取組み</p> <p><b>【日本語基礎Ⅰ・Ⅱ】</b></p> <p>到達目標は、日本語の助詞、自動詞、他動詞、書体などの基本的な知識を身に付け、アカデミックなレベルで正確な文章を書くことができることである。これらの目標を達成するために、春学期は中級レベルの漢字テキストを購入させ、毎回の授業で小テストを行い、予習を徹底させた。秋学期は、上級レベルの漢字テキストを用い、毎回の授業で確認テストを行った。また、アカデミックライティングの基礎を確立するために、書き言葉や助詞相当語の例文作成を行った。秋学期には、スピーチコンテストの参加を義務付け、その為の作文作成と口頭発表を重点的に指導した。</p> <p><b>【コミュニケーションスキル】</b></p> <p>到達目標は、適切な口頭コミュニケーション能力を身に付けることと、グループ内での話し合いに積極的に参加し、明確に自分の意見を言うことができることである。これらの目標を達成するために、学生を小グループに分けて各種のコミュニケーションゲームを通じて、基礎的なコミュニケーションスキルの修得を目指した。また、学生が自分のコミュニケーションの問題点や改善点に気付くために、毎回の授業の振り返りを翌週に課題として提出させた。</p> <p><b>【日本語応用】</b></p> <p>到達目標は、日本語のレポートや学術論文などを読むのに必要な日本語文法および論説文を読み解くために役立つ論文構造に関する基礎的知識を身につけること、専門分野の論文を独力で読んでいくための基礎的読解力を身につけることである。これらの目標を達成するために、主に日本語能力試験 1 級レベルの文字、語彙、文法項目を取り上げ、練習問題等を解かせた。また、毎回の授業において日本語能力試験 1 級レベルの文字、語彙から漢字の小テストを行った。</p>
<p>② 学生による授業改善アンケート（結果）について</p> <p><b>【日本語基礎Ⅰ・Ⅱ】</b></p> <p>殆どの質問項目において学科平均を上回ったが、日本語基礎Ⅱの質問 5 のみ学科平均を下回った。</p> <p><b>【コミュニケーションスキル】</b></p> <p>質問 6、9 で学科平均を下回った。</p> <p><b>【日本語応用】</b></p> <p>全ての項目で学科平均を上回った。</p>
<p>③ 授業の自己評価と考察</p>

**【日本語基礎Ⅰ・Ⅱ】**

本科目はシラバス通り実行し、評価についてもシラバスに明記した通りであったが、日本語基礎Ⅱについてはマナーの悪い学生に対する指導が適切ではない部分があったと考えられる。

**【コミュニケーションスキル】**

本科目はシラバス通り実行し、評価についてもシラバスに明記した通りであったが、受講人数が多く、学生一人一人に目が届かなかった可能性がある。

**【日本語応用】**

本科目はシラバス通り実行し、評価についてもシラバスに明記した通りであったが、定期試験の結果が良くない受講者がいた。

**④ 次年度に向けた授業改善の課題と具体的方策**

**【日本語基礎Ⅰ・Ⅱ】**

今後も基礎的な漢字とアカデミックライティングの修得を目指し、テキストを効率的に使用して指導を行いたい。また、予習・復習を徹底させると同時に、マナーの悪い学生に対する指導を適切に行いたいと考えている。

**【コミュニケーションスキル】**

配布資料の改善と授業後の振り返りシートの提出を徹底していきたい。また、受講者数を制限するなどの措置を講じ、個々に指導が行える環境を整えたい。

**【日本語応用】**

日本語能力試験 1 級レベルの文字、語彙、文法だけではなく、読解能力を伸ばすために文章読解等も取り入れていきたいと考えている。

## 学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2023年度）

宇都宮共和大学 シティライフ学部

教員氏名 高丸 圭一

<p>① 科目の目的（到達目標）と授業内容・方法の改善の取り組み</p> <p>カリキュラム 2023 においてデータサイエンス教育を重視し、いくつかの情報処理科目をデータサイエンス中心の内容に置き換えた。「情報社会と AI（旧：情報基礎論）」は従来からデータサイエンスを指向した講義内容の科目であり、科目名称を現状にあわせた。「データサイエンス入門（旧：情報リテラシ2）」は従来 PowerPoint と Excel の活用方法を学ぶ情報処理科目であったが、新カリキュラムにおいて、データの利活用（収集・分析・可視化の基礎）を目指す内容に変更した。実践的な操作を学ぶ教材を選定し、実習を行いながらデータサイエンスの基礎を学べるようにした。「データ分析技術（旧：情報処理応用）」は 2 年次配当科目であり、新カリキュラムとしての開講は 2024 年度からであるが、2023 年度のシラバスにおいて、講義内容を先取りして改変した。ビジネス場面（具体的には、販売管理・マーケティング・顧客管理）で実践的に役立つ分析事例を教材として、Excel によるデータ分析を行うやや難易度の高い内容を設定した。</p>
<p>② 学生による授業改善アンケート（結果）について</p> <p>「情報社会と AI」で学部平均と比べやや高値となった項目（高値項目）は「Q5 マナー指導」と「Q9 予習・復習」であった。学部平均と比べやや低値となった項目（低値項目）は「Q2 理解」と「Q8 自身のマナー」であった。「データサイエンス入門」の高値項目は「Q3 興味」「Q5 マナー指導」「Q10 受講してよかった」であった。低値項目は存在しない。「データベース概論」はおおむね学部平均に近い値であった。「情報処理応用」における低値項目は「Q2 理解」や「Q9 予習・復習」であった。「情報システム論」の高値項目は「Q9 予習・復習」であった。</p> <p>自由記述（受講してよかった理由）で特筆すべきものとして「興味以前に意識すらしていなかったことについての話を聞いた。」「理解することが難しかったが、授業内容はよくまとめられていて、聞きやすかった。」（以上、情報社会と AI）、「講義の進捗の邪魔になるような学生に対する注意が的確だった。」「講義の進行速度も適正で、一通りのところまで進んだ後は学生の質問に応答したり、躓いて取り残されることがないようにしてよかった。」（情報処理応用）、「プリントや説明がとても分かりやすかった。」（情報システム論）が挙げられる。</p>
<p>③ 授業の自己評価と考察</p> <p>1 年次配当の「情報社会と AI」「情報システム論」では、準備学修の習慣付けのため、明示的な課題を毎週提示することを心がけた。この結果「情報システム論」では「Q9 予習復習」が 4.45 と高値であった。また、「Q5 マナー指導」については、全体的に高い評価が得られており、適切な講義運営ができていたのではないかと考えられる。「情報処理応用」は到達目標をやや高めに設定したことから「Q2 理解」が 3.82 とやや低くなった。分からなかったところを講義時間外に繰り返し確認するように指示をしたが、「Q9 予習復習」が 3.77 と低く、学習意欲の低さに</p>



問題があった可能性が考えられる。

なお、いずれの科目もおおむねシラバス通りの講義進行であった。また、成績評価はすべてシラバス通りに適切に行われた。

#### ④ 次年度に向けた授業改善の課題と具体的方策

学生が予習復習に当てた時間を客観視できるように、講義内で説明をしていきたい。教員によって課された具体的な課題を行うこと以外にも、受講に向けた準備や授業後の脳内での反芻、レポート課題のための思考の時間など予習復習に該当する種々の時間を学生自身が「予習復習に当てた時間である」と客観視できていないことから、このことを改善していきたい。

自由記述項目でも「分かりやすかった」「興味が持てた」という方向性の意見が多くみられたので、講義資料を工夫し、学生の興味に基づいて、到達目標に導けるような分かりやすい講義内容を構築していきたい。

## 学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2023年度）

宇都宮共和大学 シティライフ学部

教員氏名 薄井浩信

<p>① 科目の目的（到達目標）と授業内容・方法の改善の取組み</p> <p>担当している科目の共通の到達目標は、簿記会計に関する理解と日商簿記試験に合格できる力を身につけることである。そのために、まず、基礎基本を理解させるために丁寧に授業を進め、その際に、教科書だけでは理解が難しい單元については補助プリント作成するなどの工夫を行った。さらに、学習した知識の定着のために、練習問題に多くの時間を割き、毎時間、質疑応答の時間を取り、課題も提出させた。また、簿記会計に関する実際の社会における実践例などを紹介して興味関心を持てるようにした。</p>
<p>② 学生による授業改善アンケート（結果）について</p> <p>「知的関心・興味」の項目については、学科平均点より低い結果であった。これは、簿記会計の科目の特性上、向き不向きがはっきりと現れる傾向があり、もっと勉強したいと興味を持って取り組む学生と苦手意識を持ってしまう学生が混在しているためではないかと考えられる。また、「質疑応答」「授業の予習・復習」の項目については、学科平均点より高い結果であったことから、多くの学生が課題等に熱心に取り組む傾向が見られ、勉強の習慣が身につけているのではないかと感じられた。</p>
<p>③ 授業の自己評価と考察</p> <p>担当している科目の協業内容及び評価については、ほぼシラバス通りに実施することができた。ただ、クラス内で理解の程度に大きな差があり、理解の厳しい学生に対して授業内で対応することが難しい場面もあった。授業のレベルを落とすことも考えたが、目標である日商簿記検定試験に合格するためにはある程度のレベルを維持する必要があったため、授業時間外に質問に応じたり、補講を行ったりして対応し、効果のあった学生も多かったが、一定程度の学生は取り組む姿勢が見られなかったように感じた。</p>
<p>④ 次年度に向けた授業改善の課題と具体的方策</p> <p>「知的関心・興味」を持たせるために、より一層、簿記会計の実践的事例や具体的事例を多く取り入れた授業を展開していきたい。また、クラス内の理解の差が大きくなるないように、来年度は、今年度も行った補講や授業外の質疑応答の時間を積極的に取り入れていきたい。そして、もし、クラス内の理解の差が大きくなった場合には、クラスを分けて授業を展開するなどの方策を取り入れてみたい。さらに、検定試験の受験者数、合格者数が多くなるよう取り組んでいきたい。</p>

## 学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2023年度）

宇都宮共和大学 シティライフ学部

教員氏名 北浦 さおり

<b>① 科目の目的（到達目標）と授業内容・方法の改善の取組み</b>
<p>「商品企画論」では、理論的な理解だけではなく、実際に体験して学んでもらうことを目的にグループディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブラーニングを導入した。「統計学入門」では、春学期と秋学期で受講生の人数に偏りがあるため、学生の理解を深めるように人数に応じて進むスピードや到達度確認問題の提供などの工夫をした。</p>
<b>② 学生による授業改善アンケート（結果）について</b>
<p>「商品企画論」は、平均点を下回る結果がいくつかあったものの、大きく乖離しているわけではなかった。予習復習をしたかどうかの項目がもっとも学科平均点と乖離が大きかった。授業の特性上、アイデアなどを事前に考えたり、課題のためにグループで話し合ったりしたはずであるが、学生自身がそれらを予習や復習と認識していない可能性がある。「統計学入門」は、秋学期は少人数であった。そのため、授業への関心や興味を高めたり、質疑応答に十分対応できた一方、受講態度の悪い学生の存在が目立ったようであった。</p>
<b>③ 授業の自己評価と考察</b>
<p>「商品企画論」については、シラバス通りに進めることができた。アクティブラーニングが授業の目的や内容とよくマッチするため、従来の講義だけの形式よりも学習効果が高かったように思える。実際に、最終課題のプレゼンテーションの内容を見ても、以前よりも企画もプレゼンテーションも良くなったと感じる。「統計学入門」についても、シラバス通りに授業を進めることができたが、受講者のレベルに大きな差があるため、レベルの違いに対してもう少し工夫ができるのではないかと思う。</p>
<b>④ 次年度に向けた授業改善の課題と具体的方策</b>
<p>「商品企画論」については、さらに最新のトピックや企画事例を取り入れて、受講生の興味・関心および理解を向上させられるように努めたい。「統計学入門」については、理解が早い学生とパソコンの操作もおぼつかない学生とに2極化している状況が引き続きみられるため、受講の際にアドバイスをするなど工夫をしたい。</p>

## 学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2023年度）

宇都宮共和大学 シティライフ学部

教員氏名 小浜 駿

① 科目の目的（到達目標）と授業内容・方法の改善の取組み
<p>各科目で文言は異なるが、概して各科目が対象としている現象を楽しく理解してもらうことを科目の目的として設定してきた。例えば、「現代社会論」ならば現代社会について、「教育心理学」であれば子どもの心を楽しく理解できる授業を目指した。</p>
② 学生による授業改善アンケート（結果）について
<p>報告者の授業改善アンケート結果は概ね平均程度であった。2022年度以前は学年平均より大きく高い項目が複数見られたが、今年度はそうした結果とならなかった。</p>
③ 授業の自己評価と考察
<p>2022年度以前の結果を見比べると、ほぼ値のぶれはなく、報告者の授業の質が低下したとは判断されづらかった。学年平均値が上昇したことで、報告者の結果が相対的に低下したと考えられる。したがって、今後は他の教員の授業に参加する教員相互参観によって他の教員の授業の工夫を学ぶことが非常に重要であると考えられる。</p> <p>講義内容、成績評価はともにシラバス通りに実施された。</p>
④ 次年度に向けた授業改善の課題と具体的方策
<p>特に予習復習に関する項目の得点が低かったため、この点の改善を行う必要がある。予習復習をさせるためには、単に課題を出すことが効果的である。ただし、それは表面上の成果を上げることにしかつながらない。今後は、学生各自が自学自修を行う要因について探索していく必要がある。要因が明らかになったのち、授業内容等に反映していきたい。</p>

## 学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2023年度）

宇都宮共和大学 シティライフ学部

教員氏名 今 喜史

<p>① 科目の目的（到達目標）と授業内容・方法の改善の取組み</p> <p>2年次以上の配当科目において、Google クラウドの活用を前年度よりも拡充した。教室で配布する資料をファイルで前日に掲載するほか、授業で参照する統計の元データの URL へのリンクも作成した。毎回の確認テストで、これらを活用することにより優れた回答を作成する学生も増え、教育効果を実感することができた。</p>
<p>② 学生による授業改善アンケート（結果）について</p> <p>学部平均と比較して、筆者が特に高い評価を得ている項目は問 No.6「教科書・資料などの教材は適切であった」となっている。「労働経済学」など、まさに直近のデータを使用することによって就職活動を控えた学生の興味を引くことができた。本学の学生は、経済学の理論的な分析よりも統計データを示す実証分析のほうに関心が強く、このような評価に結びついたものと思われる。</p>
<p>③ 授業の自己評価と考察</p> <p>授業内容及び評価の方法は、すべてシラバスに記載されたとおり行った。科目の特性に合わせて筆記試験とレポートの配点を組み合わせる方針は、教育効果の観点からも変更すべきではない。なおレポート課題において、生成 AI の普及による不正利用の可能性が全国的に懸念されているが、出題において「講義の第〇回の内容を前提として」などと条件づけることにより、安易な生成 AI の利用は抑止できるのではないかと考えている。「経済政策論」のように思考力が問われる科目の場合には、今後も筆記試験が有用であろう。</p>
<p>④ 次年度に向けた授業改善の課題と具体的方策</p> <p>授業改善アンケートによって、筆者の作成した講義資料が「適切であった」という評価を得たことは大きな収穫であった。次年度は、学生の関心に沿う統計データなどをさらに広く探し、学生が前のめりで受講したくなるような授業の運営に努めたい。そのためには、適切なオンライン教材の使用（講義の最初は前回のスライド資料を使った復習→中盤は統計データの解説→最後にオンラインでの確認テスト）を入念に計画することが必要であると考えている。</p>

## 学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2023年度）

宇都宮共和大学 シティライフ学部

教員氏名 永井 紹裕

<p>① 科目の目的（到達目標）と授業内容・方法の改善の取組み</p> <p>本年度の講義では、授業に関するレジュメを配布するとともに、適宜パワーポイントを使用して説明を加えた。さらに、教科書を指定している講義では、該当箇所を指摘することで復習の際の手助けになるようにした。難解な概念をわかりやすく説明するため、よく挙げられる具体例や実際の判例・裁判例を紹介し、より馴染みやすくなるように工夫をした。</p> <p>さらに、各回の理解度を見るために、内容に関する質問を毎回コメントペーパーで答えてもらう形式にした。その際には、当該授業回に説明した内容に限らず、より広い範囲から設問し、復習の助けになるようにした。</p>
<p>② 学生による授業改善アンケート（結果）について</p> <p>本年度は、「法学入門」「民法入門」「憲法」「労働法」でアンケートを実施した。アンケートの内容に鑑みると、比較的多くの学生に内容を理解してもらえたものと考えられる。本年度は、できるだけ丁寧に内容を説明するために、理解が定着するまで大事な箇所は例を変えて何度も説明したことによってコメントペーパーや小テストの理解の向上が見られた。</p> <p>予習や復習をしたという項目に関しては昨年度よりは意識が多少上がっているように見えるが、今後一層工夫していきたいと考えている。</p>
<p>③ 授業の自己評価と考察</p> <p>いずれの科目も概ねシラバスで予定していた内容を終えることができたが、「労働法」や「憲法」は具体例などの説明や概念の説明、コメントペーパーの解答から見て理解が定着していないと考えられる内容を何回か重複して説明してことで時間を要し、多少消化できなかった点もある。</p> <p>本年度も小テストや期末試験の解答を見ると、教員が重要だと考えていた点に関する問題の正答率は高かった。したがって、教員がとりわけ丁寧に説明した点は理解してくれているものと思われる。評価の方法については、シラバス通り平常点（各回のコメントペーパーや小テスト）と期末試験で行った。</p>
<p>④ 次年度に向けた授業改善の課題と具体的方策</p> <p>シラバスで予定されている点を多少消化できなかった点については、本年度の反省を踏まえて次年度も引き続き講義で教えるべき内容がある程度しぼり、とりわけ重要である点を中心に丁寧に説明するようになりたいと考えている。また、予習や復習については、教科書やレジュメを活用しながらも、学生が主体的になれるように、学生自身に調べておいてほしい内容を提示するなどの工夫をしたいと考えている。</p>

## IV FD・SD 研修

### 1. FD・SD 研修

日 時：2023 年 8 月 21 日（月）15 時～16 時

会 場：宇都宮シティキャンパス 401 講義室

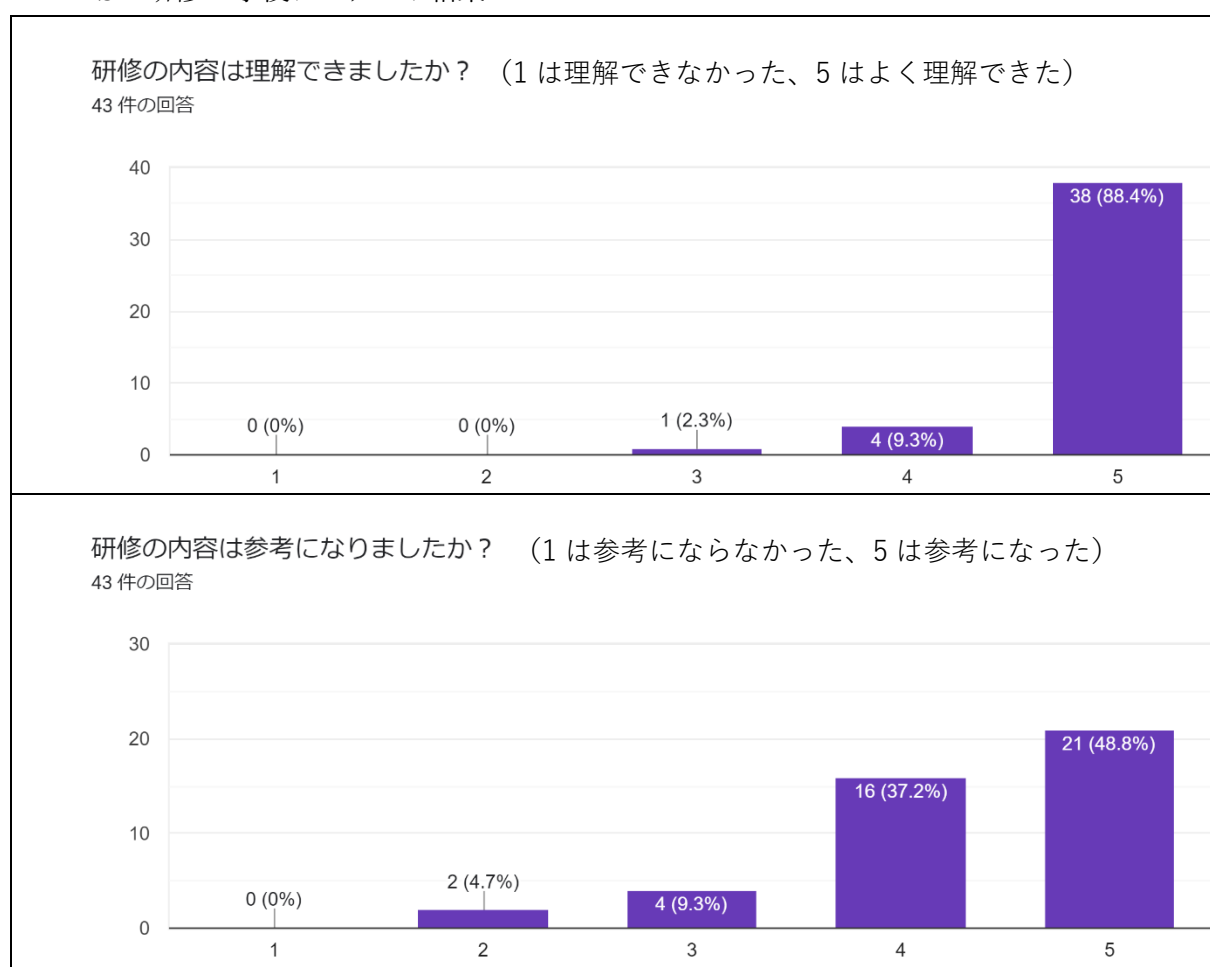
テーマ：「若人の特徴を活かした指導方法」

講 師：（株）エイジェックススポーツ総合事業部長 辻 武史氏

（元プロ野球福岡ダイエーホークス選手、栃木ゴールデンブレーブス初代監督）

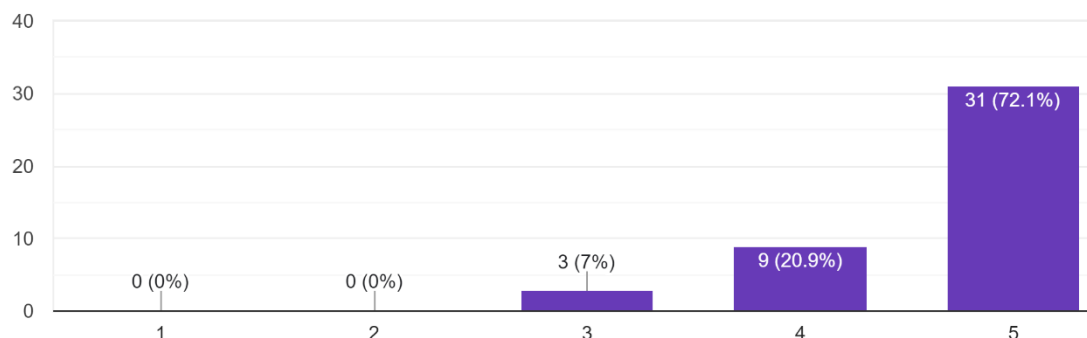
受講者：宇都宮共和大学・宇都宮短期大学 教職員 53 名

### FD・SD 研修 事後アンケート結果



講師の話は分かりやすかったですか？（1は分かりづらかった、5は分かりやすかった）

43件の回答



◎今後、どのような研修を希望しますか？

- ChatGPT など生成系 AI について（メリット・デメリットなど）（3名）
- 最近 chatGTP が普及していますが、使い方の注意点や授業の中で学生にどのように活用するようにアドバイスしたらよいかなど知りたいです。
- パソコンの機器やアプリの操作、今回も含まれていた今の若者の価値観や傾向についての「共通理解」、アクティブラーニングについて
- 情報リテラシーが高まる研修（知識・スキルなど）
- ICT 教育の多様性が学べる研修
- 大学での教授（指導）と評価
- 授業における学生への伝え方に関する研修
- コミュニケーションに困難さを感じている学生への指導
- 合理的配慮が必要な学生への対応について
- 今後も指導における心構えや大切さについて、実体験を聴講できる研修を希望します。
- 学修成果の可視化、保育者養成校の在り方など
- さまざまな困難さを抱える学生・保護者への対応、専門機関との連携など
- 発達障害等の対応について
- 学生のメンタルヘルスのサポートなど
- 今回のように外部講師による研修を希望いたします。
- 著名人による講演など
- 様々な分野で第一線として活躍される方の講話研修が拝聴できる機会を希望
- 今回のような異業種、異分野で活躍されている方の講演
- もう少しテーマに即した内容を希望します。
- 今回の研修では、現代の若者にどのような指導が必要かをこれまでの教員としてのスタンスを改めて確認できた内容でした。とてもためになった研修会でした。視点を変えて、学生支援・指導として教員に求められるものの研修もよいのかと思いました。
- 『「対話的学び」をつくる 聴き合い学び合う授業』の著者の石井順治先生のお話を聞いてみたいです。小中校であっても、対人間で、集団で教育を行うという点で共通するところがあるように思います。
- 仕事に活用できる実践的な内容の研修を。



- スポーツ心理学のお話をさらに聞いてみたい。
- 近年に改正・変更点などのあった事項に関する研修
- 業務の中で適切に伝えつつ、メールを減らす工夫
- 異分野の最先端でご活躍されている方のレアな情報を希望します。
- 「伝えること」に関する研修。伝えつもりでも正しく伝わっていなかったり、聞く側も自分に都合よく聞いてしまったり。それにより業務が滞ることがあります。皆が正しく伝えあうことで、業務の効率化も図れます。

## 2. FD 研修

日 時：2024 年 2 月 19 日（月）教授会終了後 90 分程度

会 場：宇都宮共和大学宇都宮シティキャンパス 701 会議室

テーマ：「シラバスチェックリストによる点検について」

対象者：常勤教員（14 名）

内 容：シラバスチェックリストに従い、ゼミを除く全科目を点検した（一人 9～10 科目程度を担当）。シラバスを組織的に点検することにより、適切に作成することができた。

## 3. SD 研修

(1) 実施日：2023 年 9 月 25 日

テーマ：「自殺予防ゲートキーパー研修会」

参加者：15 名

(2) 実施日：2023 年 9 月 25 日

テーマ：「インボイス制度の概要」

参加者：15 名

(3) 実施日：2023 年 12 月 25 日

テーマ：「救急救命時の初動対応の仕方」（外部講師）

参加者：13 名

(4) 情報セキュリティ研修

日 時：2024 年 3 月 4 日(月)15 時 30 分～16 時 30 分

会 場：宇都宮シティキャンパス 605 講義室（PC 教室）

講 師：シティライフ学部 高丸圭一教授

参加者：宇都宮シティキャンパス教職員

内 容：この秋学期からリニューアルした PC 教室の使い方（教卓の使い方および学生用 PC について）、メディアセンターの PC の現状、無線 LAN 環境の現状および今後の予定  
図書館に設置された ChromeBook 用プリンタの使い方 など

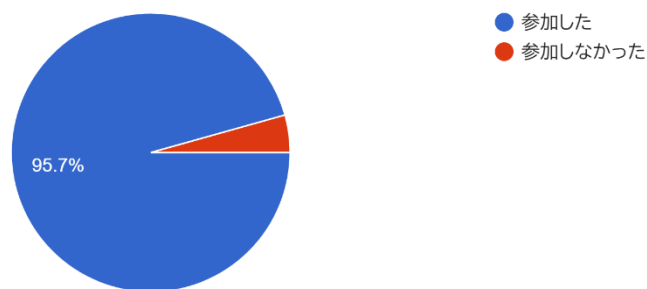
## 情報セキュリティ研修 事後アンケート結果

### 回答者一覧

永井紹裕, 小浜駿, 今喜史, 内藤英二, 藤崎緑子, 北浦さおり, 薄井浩信, 磯澄江, 田上富男, 大石和博, 陣内雄次, 横井紀昭, 栗原郁裕, 寺内孝夫, 鈴木正文, 平井勝之, 枝健太郎, 土井倫子, 和田佐英子, 松田勇一, 浮須晋吾, 石塚久美, 湯沢理恵

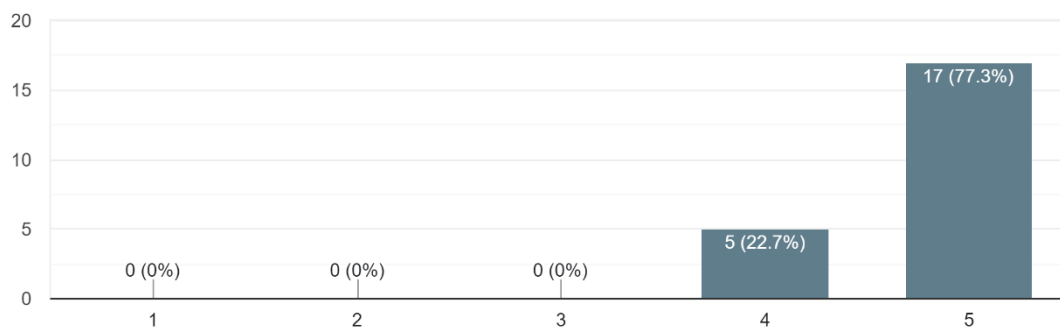
### FD・SD情報セキュリティ研修会に参加しましたか？

23件の回答



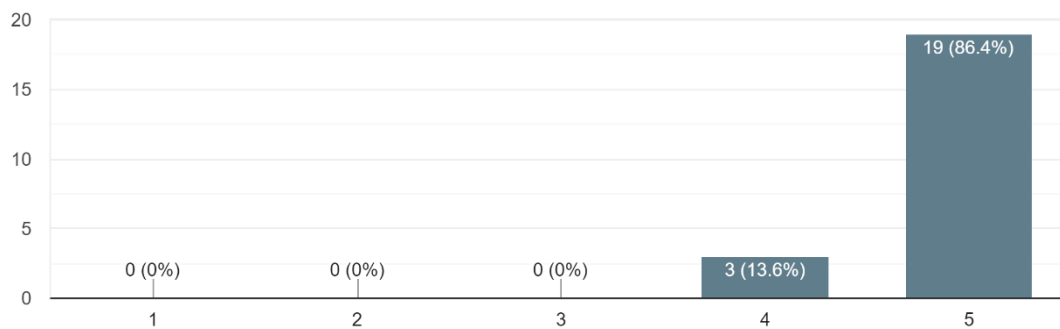
### 研修の内容は理解できましたか？

22件の回答



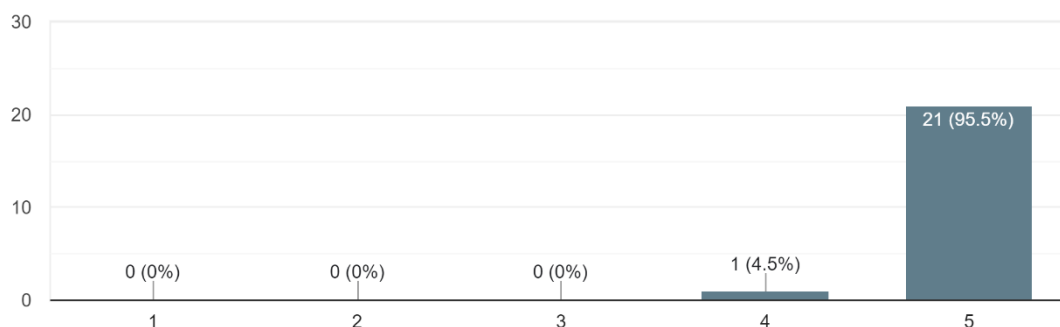
### 研修の内容は参考になりましたか？

22件の回答



### 講師の話は分かりやすかったですか？

22件の回答



情報セキュリティや本学の情報システムに関するご質問があればお書き下さい。

- パスワードがいろいろあって使い分けるのが大変。メモしておくのも心配。
- 特になし
- とくにありません
- 今のところは、昨日の研修でわかったつもりになっています。
- 特にありません

今回の研修についてご意見・ご感想があればお書き下さい。

- アクティブラーニングルーム？の様子が分かってよかったです。授業以外の時間に学生が活用することは可能なのでしょうか。
- パソコンの利用方法、ログインの方法、2画面表示方法、動かせる机など、アクティブラーニング室の装備を直に知ることができて大変勉強になった。
- 適当にやっていたところがよく理解できたので、おかげさまで次回からちゃんとやれると思います。
- 授業で必要な内容の研修をしていただき、ありがとうございました。
- わかりやすかったです
- 大変分かりやすい説明でした。が、私は機械が苦手なため、操作に戸惑いました。
- 大変ありがとうございました。
- 本日のような研修機会があると、本当に助かります。ありがとうございました。
- 特にありません
- 実際に動作確認する大切さをしみじみ実感しました。ありがとうございました。

今後のFD/SD研修について

ICT活用や情報セキュリティについて、どのような研修を希望しますか？

- Google クラスルームや Google フォームの使い方についてなど
- google フォームとかスプレッドシートとかの活用方法を多くの教員が理解し、紙の提出物がもっと減る展開になればいいな、と思いつつ、ちょっと高望みかなとも思っております。
- ゼミ室でクラスルームを使ってゼミ生と情報の共有をできたらと思っています。そのあたりの情報も欲しいです。
- 情報セキュリティについて、共有フォルダの使用管理方法・心構えについて
- youtube を授業で使うのですが、うまく使えていない気がしています。活用例やプレゼン

テーションでの使い方、注意事項などを教えていただけたらうれしいです。

- AI に関する研修を希望します
- ICT活用について希望します。
- 講義内での ICT 活用実践例など知りたいです。
- ChatGPT などの生成 AI を積極的に業務に利用したいので、その方法や問題点などをご教示願います。
- 現在のネットワーク機器の構成について。
- どこにどのような機器があり、外界とのつながりはどのような仕組みとなっているのか。Wifi と有線のできることで、できないこと（NTT サーバーは有線じゃないと言われたのですが、本当でしょうか？Wifi でも問題ないと思うのですが。。。）。また、NTTサーバーとOneDrive、GoogleDrive のメリットデメリット、リスクについて。
- すぐに内容について頭に浮かばないが、こうした機会があると、大変ありがたいので、次回もこうした研修を楽しみにしています。
- Google クラウドームを利用した授業例などを年配の先生方向けに開催できると良いと思います。（資料のアップロードやレポート課題など）
- 学生が Google Classroom に課題を提出する流れのシュミレーション

## 5. 研究倫理研修

実施期間：2024年1月15日(月)～2月16日(金)

内容等、次ページ以降掲載（2024年3月シティライフ学部教授会資料より）

## 6. キャンパス・ハラスメント研修

実施期間：2024年1月4日から2月16日まで

内容等、次ページ以降掲載（2024年3月シティライフ学部教授会資料より）

# 2023 年度研究倫理研修会報告書

研究・図書委員会

## (1) 研修実施日

1月15日(月)～2月16日(金)

## (2) 研修目的

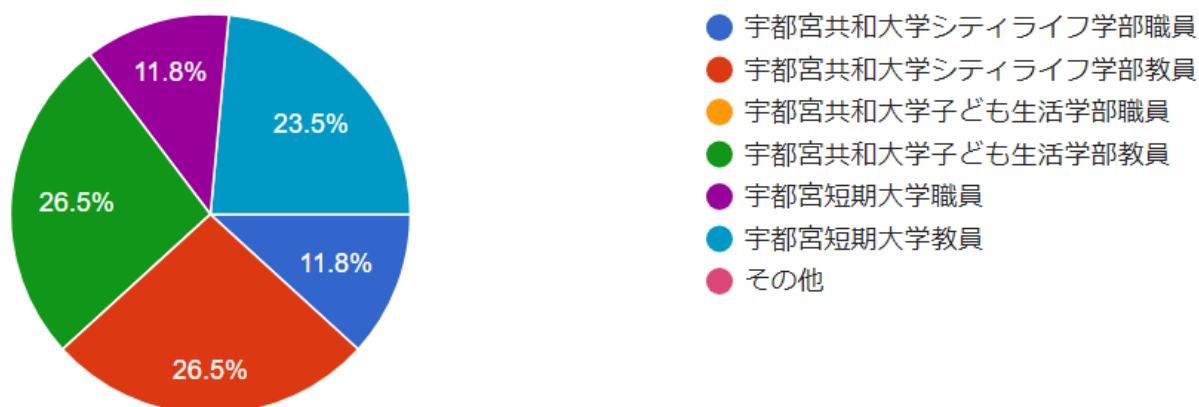
今日、大学教員等には研修倫理を遵守することが強く求められており、映像教材による事例を通して、全学的に教職員の研究倫理意識を高めることを目的に実施する。

## (3) 研修内容及び方法

YouTube 動画「倫理の空白Ⅱ 盗用 人文・社会科学編」JST channel  
を実施期間内に各自で視聴した後、アンケートの質問事項に答えて、理解状況を確認する。

## (4) アンケート結果

### ◆ ご所属を教えてください

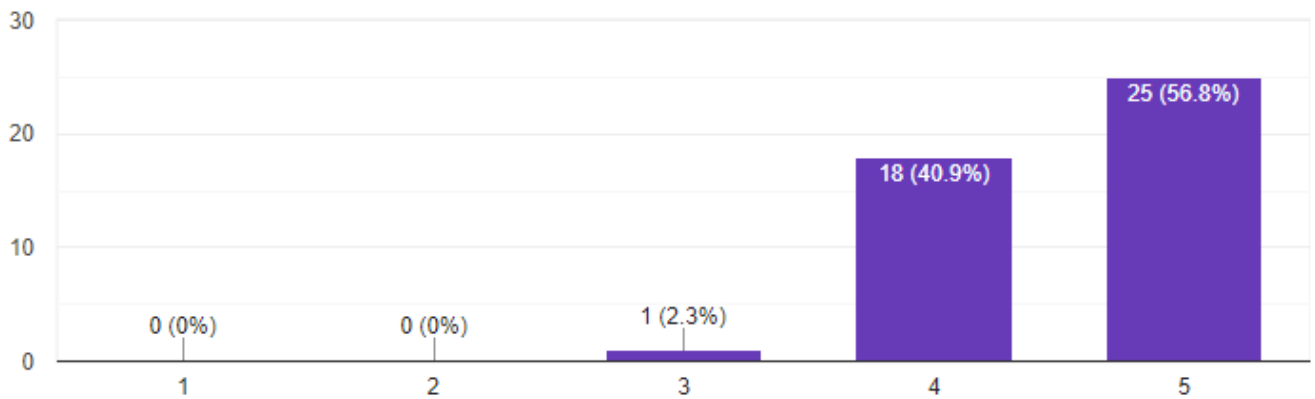


### ◆ スコア

◇ 6点:100%

※すべての回答者が動画の内容を適切に理解し、内容確認項目に正しく回答したことを示す

- ◆ 今回の講習の内容は、理解しやすいものだったでしょうか。1-5のうち1つを選択してください。（1は分からない。5はよく分かった。）



- ◆ 今回の講習について、何かご感想やご意見がありましたら、自由にご記入ください。
  - ◇ 今回の講習について、何かご感想やご意見がありましたら、自由にご記入ください。
  - ◇ 楽しめながら受けられる講習内容でよかったです。
  - ◇ 結構スリリングな内容でしたね。
  - ◇ 内容は平易でしたが社会科学をテーマにしたものは珍しく、よい教材だったのではないのでしょうか。
  - ◇ ストーリーがあって、動画での研修でしたので集中力が持続でき、しかも時間的にもよかったと思います。
  - ◇ 研究の質を保証するために改めて基本的なルールを確認でき、よかった。
  - ◇ 研究不正の代表格「盗用」について考えさせられる内容でした。同ゼミ生の研究不正報告の目撃と研究倫理担当者との会話、元同ゼミ生からの論文盗用の指摘など、研究不正について主人公が自分自身を見つめ直す事ができるエピソードがあったものの、自分事として考える事ができないまま、盗用の加害者としての結末をむかえ、事の深刻さがうかがえました。学生から研究者へ成長していく過程で、研究倫理教育が不十分な状況下では、教える側、教わる側、どの立場の者であろうと、いつでも起こり得る事だと思います。改めて研究倫理教育の重要性を感じました。
  - ◇ 自分の意識や学生の指導を振り返るよい機会になった。
  - ◇ 学生にも見てもらった方がいいですね。
  - ◇ 盗用に関しては些細なことにも気を配らなければならないことが理解できた。
  - ◇ よくありそうな事例を取り上げ、示唆に富んでいたと思う
  - ◇ 映像はありがちな内容だが、重要だと思った。孫引きの恐ろしさ等、指導教官に繰り返し教えられた事を思い出した。私自身も執筆した論文の文章盗用（大学院時代に、後輩が書いた修士論文に）や、出版した書籍に掲載した自作の表を無断引用されているのを偶然発見した経験があり、ショックだったことを思い出した。内容にあったように「無自覚」というのが最も恐ろしいと感じた。改めて気をつけようと思った。
  - ◇ 映像はありがちな内容だが、重要だと思った。孫引きの恐ろしさ等、指導教官に繰り返し教えられた事を思い出した。私自身も執筆した論文の文章盗用（大学院時代に、後輩が書いた修士論文に）や、出版した書籍に掲載した自作の表を無断引用されているのを偶然発見した経験があり、

ショックだったことを思い出した。内容にあったように「無自覚」というのが最も恐ろしいと感じた。改めて気をつけようと思った。

- ◇ 学生のレポートを読み上で参考になった。
- ◇ 分かりやすい動画でした。
- ◇ 他の研究の引用と孫引きの関係がよくわかりました。
- ◇ 学生・院生目線の内容であるとはいえ、論文指導者としても心に留めておかないといけないと改めて感じた。当該研究者がその後どうなったかが明確でないところもこの映像の醍醐味であり、倫理規定の重要性を再認識させるものと認識した。学生にも見せたいと感じた。
- ◇ 動画の中の言葉「無意識に不正をしていることも・・・」は、とても気を付けなくてはならない。自分事として、常に意識したい。また、同じような内容でも、定期的にこのような機会があるが必要である。ご準備くださりありがとうございます。
- ◇ 引用には最新の注意を払う必要があると改めて感じた。現実には原典にあたろうとするが、入手できないこともある。
- ◇ 今までの講習とは違った形式のもので新鮮だった。今回は、すべての教員が人文・社会科学系の内容を視聴することになっていた。我々の専門分野では普段触れない分野について学ぶことは大変興味深いことではあったが、シリーズの自然科学系の動画を見たところそれもよい動画であった。専門分野を加味した動画の選択があってもよいのではないかと思われた。
- ◇ 身近な設定で、わずかな不正も許されないことを痛感しました。
- ◇ 最新の動向に沿って基本原則を取り扱った教材としても良い内容であった。
- ◆ 今後の研修会に望む内容などがありましたら、自由にご記入ください。
  - ◇ 独自に行う研修ではこのレベルの内容は難しいと思うので、いいものは今回のように活用するのがいいと思います。
  - ◇ 学際的な共同研究を組織してゆく上での基本的ルール、配慮事項などについての研修。
  - ◇ 本学研究倫理指針の概要について(基本的内容の再確認)
  - ◇ 研究倫理について問われるようなニュースが出たら、その都度、何が問題視されたのか、常時勉強しておきたい。
  - ◇ 何年か毎には、研究不正問題を研究している人の話を聞く機会があっても良いのではと思います。
  - ◇ ヒトを対象とする研究では、研究計画を倫理委員会に審査・承認してもらう必要があるが、研究計画によっては、必ずしも倫理委員会の審査・承認を必要としない場合もある。本学の場合のその線引きを教えてください。(質問紙調査において無記名の場合、匿名化されているデータを取り扱う場合など)
  - ◇ これらのシリーズで、学びを進めていくとよいと思います。
  - ◇ 前の回答とも重なるのであるが、専門分野を加味した動画の選択があってもよいのではないかと思われた。
  - ◇ 今回のようにわかりやすい事例を望みます。
  - ◇ 今回のような分かり易い動画を、お願いします。

# 2023 年度キャンパス・ハラスメント 研修会報告書

## オンライン研修会に関するアンケート結果

2024/02/20 キャンパス・ハラスメント防止・啓発委員会作成

### 1. 概要

宇都宮共和大学子ども生活学部およびシティライフ学部、宇都宮短期大学所属の全教職員を対象として、キャンパス・ハラスメント・防止・啓発研修会を実施した。本研修会は、①職場におけるハラスメントの基本を学習あるいは再確認すること、②アンケートに回答することにより、自覚的に振り返りを行う機会とすることを目的として実施された。2023 年度は、職場におけるハラスメント対策研修として作成された厚生労働省の動画 1 本と確認テスト・受講証明書付きオンライン研修講座 1 本の視聴後、アンケートに回答することで完了とした。実施期間は、2024 年 1 月 4 日から 2 月 16 日までであった。アンケート回答結果を以下に記した。

### 2. 回答者の所属

全回答者 70 名の所属先の内訳を図 1 に示した。

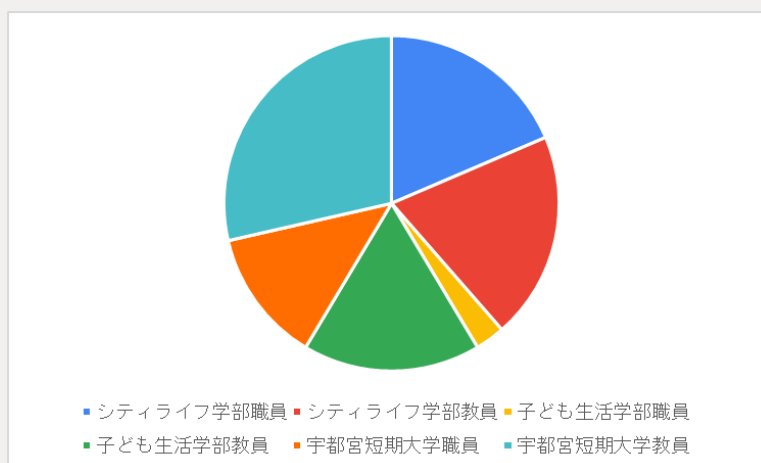


図 1 回答者の所属先

### 3. 講習内容の理解のしやすさ

「今回の講習の内容は、理解しやすいものだったでしょうか。1-5 のうち 1 つを選択してください。」という質問に対する回答結果を図 2 に示した。



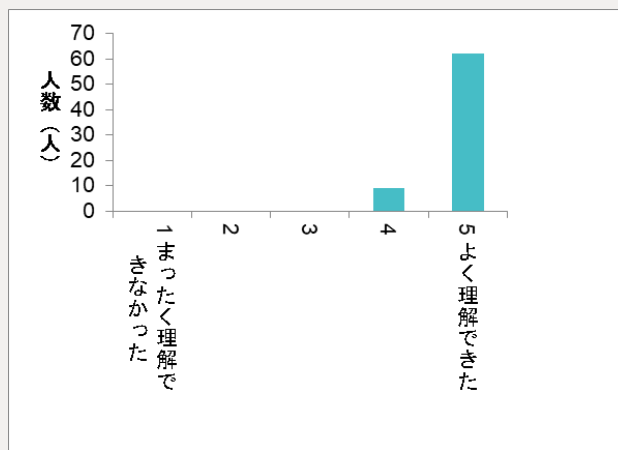


図 2 講習内容の理解のしやすさ別人数

#### 4. 講習の有意義さ

「今回の講習は、あなた自身にとってためになるものだったでしょうか。1-5 のうち 1 つを選択してください。」という質問に対する回答を図 3 に示した。

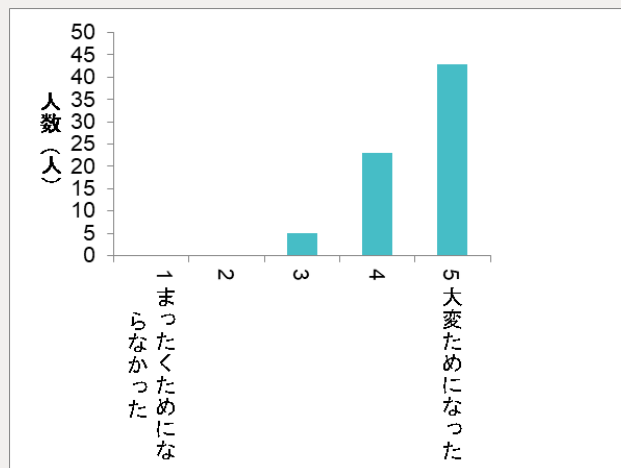


図 3 講習の有意義さ別人数

#### 5. 感想・意見

「今回の講習について、何かご感想やご意見がありましたら、自由にご記入ください。」という質問に対する主な回答を以下に示した。

- YouTube の動画は企業向けのものでしたが、大学でも通用するもの(特に相談者、当事者への傾聴の進め方等)が多々あり、大変参考になりました。また、オンライン研修講座は、動画の講義を視聴した後、ミニテストがあり、自分の理解度がすぐに確認できて良かったと思います。
- キャンハラを起こさないためにも、日頃から明るい職場づくり、風通しのよい職場環境づくりに自分なりに努めたいと思いました。
- 動画を視聴して大変勉強になりました。情報のご提供、ありがとうございました。
- 2つの研修とも、洗練された簡潔明瞭で分かりやすい内容でした。
- 基本的なことは理解しているつもりだが、定期的に繰り返し確認して自分の行動を振り返ることに意味があると思います。その意味で、確認テストがついた動画はとても良いと思います。
- 自分の時間に合わせて研修できるので便利でした。

- 法的な理解を深めることができました。知っている内容も含まれているが、繰り返し定期的に確認するこうした機会  
は重要と感じた。
- 基礎・基本的な事柄の確認にはなった。
- 具体的な例が出てくるので分かりやすかった。
- ハラスメントについて確認ができた。本学の教員用のハラスメント相談窓口はどこなのかわかりませんので、教え  
ていただきたいです。
- 今回の研修も、大変わかりやすかった。
- ハラスメントの概念を再確認できました。
- ご準備ありがとうございました。わかっているつもりでも、あらためて基礎的な内容に触れ、襟を正しました。
- 短時間で取り組み、分かりやすい内容でした！
- ハラスメントの基本について、改めて確認する機会となりました。
- 具体例があり、資料も整理されていて分かりやすかった。
- 各教員のハラスメントの可能性を自覚し、そのようにならないためにも、時々受講することはよいのではないかと  
思われます。
- 頭では理解しているつもりでも、気付かずハラスメントのような言動を取ってしまったかもしれないと思った。  
充分注意していきたい。
- オンデマンド研修は、日時が調整できるので受講しやすいです。
- 方針や対応について要点がまとまっており、理解を深めることができました。ありがとうございました。
- 各々自分で時間を取って研修動画を視聴するという形式が、時間に縛られないためやりやすく、良かったで  
す。
- パワーハラスメントは、ここで説明されているものより、分かりづらく陰湿なものが横行していると思います。
- 研修会の案内が教授会資料と異なり、わかりにくかったです。
- わかりやすく、ためになった。

## 6. 今後の研修会に望む内容

「今後の研修会に望む内容などがありましたら、自由にご記入ください。」という質問に対する主な回答を以下に示した。

- ハラスメントの基本的な概要が再確認できる研修を望みます。
- この研修会の開催（企画）は、UCC・NGC・短大の持ち回りにしてはどうでしょうか？
- オンライン講習会は自分の時間に合せて聴講することができ、良いと思いました。
- 今回と同様に Web 形式での研修を望みます。もう少し時間が短いとなお良い。
- 事例や実践に基づいて現場で起こりうる問題の対処方法を学べる、教育に資する内容の研修を期待する。
- AI に関する研修
- キャンパスハラスメントを防ぐための他大学での取り組み
- オンライン研修と研修期間が設定されていてとても良かったです。
- アカデミックハラスメントに関する内容の研修
- 学習障害や低学力の学生に対する指導や合理的配慮について、実践例から学びたいです。
- 今後ハラスメントに関する研修があるのであれば、労働者一般のハラスメントだけでなく、学校に特化したもの  
なども加えたものがよいと思います。
- オンデマンド研修を希望します。

- 他大学で問題になった事例などを取り上げていただき、ケーススタディとすれば、より発展的な研修になると思います。
- いつも大事な情報を学ばせていただき、ありがとうございます。

## V 教員相互授業参観

FD 活動の一環として教員相互授業参観を実施する。教員相互参観は参観者自身の講義に実践的に生かすことを目的としている。

### (1) 参観実施期間

春学期：2023 年 6 月 6 日(火)から 7 月 29 日(土)まで

秋学期：2023 年 11 月 7 日(火)から 12 月 23 日(土)まで

### (2) 実施方法

① 参考にしたい講義を 1 つ選び、実施期間内に参観する。

- 春学期、秋学期のいずれかに最低 1 回参観をする（2 回以上参観してもよい）。
- ゼミナール・体育・教職科目、非常勤講師による科目および受講者数の少ない科目は原則として避ける。

② 参観後、以下をまとめて報告書を作成する。

- 参観した日時・科目・教員名および参観の記録
- 参観を踏まえたご自分の担当講義における改善点などの感想

### (3) 相互参観報告書について

下記の「相互参観 2023」に報告書様式がある。記入の上、同じフォルダ内に提出すること。春学期分の提出期限は 2023 年 8 月 5 日(土)、秋学期分は 2024 年 1 月 11 日(木)とする。

「各学部学科委員会フォルダ」→「シティライフ学部」→「13 自己点検・評価推進部会」 →「教員の授業相互参観」→「相互参観 2023」
--

### (4) その他

- 参観者は開始から終了までの 90 分間を参観する。
- 参観者は参観中に学生に話しかける等の私語や迷惑行為を慎む。
- 受講ではなく参観であるため、参観者は講義中には質問や意見などの発言はしない。
- 参観者は事前に担当者の了解を得ることとする。

## 2023 年度教員相互参観報告書（シティライフ学部）

参観者	参観日時	参観科目	授業教員
田部井 信芳	2023 年 12 月 13 日 3 時限	労働経済学	今 喜史
寺内 孝夫	2023 年 11 月 29 日 3 時限	憲法	永井 紹裕
陣内 雄次	2023 年 12 月 21 日 1 時限	労働法	永井 紹裕
田上 富男	2023 年 10 月 04 日 2 時限	統計学入門	北浦 さおり
和田 佐英子	2023 年 12 月 20 日 3 時限	労働経済学	今 喜史
大石 和博	2023 年 12 月 04 日 2 時限	都市と交通 I	古池 弘隆
松田 勇一	2023 年 11 月 22 日 4 時限	管理会計論	薄井 浩信
高丸 圭一	2023 年 12 月 21 日 2 時限	現代社会論	小浜 駿
薄井 浩信	2023 年 12 月 06 日 1 時限	シティライフとまちづくり	陣内 雄次
北浦 さおり	2023 年 09 月 28 日 2 時限	教育原理	田上 富男
小浜 駿	2023 年 12 月 21 日 3 時限	情報システム論	高丸 圭一
今 善史	2023 年 07 月 07 日 1 時限	地方財政論 I	和田 佐英子
永井 紹裕	2023 年 12 月 12 日 2 時限	日本経済論	今 喜史

教員相互参観報告書

2024年 1月 10日

参 観 者 氏 名	田部井信芳
参 観 日 ・ 時 限	1 2 月 1 3 日 3 時 限
科 目 名	労働経済学
担 当 教 員 名	今 喜 史

参観の概要

<p>1. レポート試験の説明と解説</p> <p>2. 前回の授業の復習</p> <p>3. 失業と労働市場に関する説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ失業が発生するかについて、賃金の下方硬直性や雇用のミスマッチを用いて説明。</li> <li>・U-V曲線について説明し、近年の労働市場の変化について考察。 (近年U-V曲線が右方にシフトしている → 雇用のミスマッチが増えている)</li> </ul>
---

自分の講義の改善点

<ul style="list-style-type: none"> <li>・各回の講義内容をまとめた資料の配布。</li> <li>・統計や資料が豊富である。</li> <li>・データを用いて経済動向を説明している。</li> <li>・classroomを使用し、授業の最後に講義の内容や感想を提出させる。</li> <li>・実際の労働事情をわかりやすく説明している。</li> <li>・黒板がみやすい。</li> <li>・課題は深い考察を必要としており、学生に考えさせる授業を行っている。</li> </ul>
---

教員相互参観報告書

2023年11月29日

参 観 者 氏 名	寺内 孝夫
参 観 日 ・ 時 限	11月29日（水）3時限
科 目 名	憲法
担 当 教 員 名	永井紹裕

参観の概要

<p>教職関連科目ということで今回は「憲法」の講義を参観させて頂いた。第11回の今回は、社会権（生存権・教育権）についての内容であった。概要は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の復習（「憲法上の問題点は何か」の視点を確認）から入る。</li> <li>・講義レジュメの内容が大変丁寧で分かりやすい。空欄もあって、学生が考え、記入する工夫が施されている。</li> <li>・話し方は穏やか、速度も適切で聞き取りやすい。</li> <li>・判例を使った授業も分かりやすい。</li> <li>・レジュメを補足するパワーポイントが効果的に使われている。</li> <li>・学生は真面目に熱心に授業に臨んでいる。</li> </ul>
---

自分の講義の改善点

<ol style="list-style-type: none"> <li>① 講義レジュメとパワーポイントの内容・構成に工夫を凝らすこと。</li> <li>② 教材研究に、より一層努めること。</li> <li>③ 言葉遣いや話し方にも留意すること。</li> <li>④ ICTの活用など今後とも指導方法の改善に努めること。</li> <li>⑤ 身近な出来事など、具体的な教材・資料を取り上げ、講義内容への関心・意欲を高めること。</li> </ol>
---

## 教員相互参観報告書

2023年12月21日

参 観 者 氏 名	陣内 雄次
参 観 日 ・ 時 限	12月21日 1時限
科 目 名	労働法
担 当 教 員 名	永井 紹裕

### 参観の概要

レジメとパワーポイントによる、労働災害、退職（労働契約の終了）による講義であった。

最初に前回の課題の振り返りがあり、最後に確認テストが行われた。

### 自分の講義の改善点

・前回の課題の振り返りを丁寧に実施されていた。自分の授業でも前回授業の振り返りシートやミニテストの解説をしているが、もっと時間をかけて丁寧に行うようにしたい。

・配布レジメとパワーポイントが連動しており、非常に分かりやすい資料となっていた。自分の場合は、グーグルクラスルームのパワーポイントがメインであり、必要に応じて参考資料を配付している。パワーポイントと配付レジメという構成も今後検討してみたい。



教員相互参観報告書

2023年10月4日

参 観 者 氏 名	田上 富男
参 観 日 ・ 時 限	10月 4日 2時限目
科 目 名	統計学入門
担 当 教 員 名	北浦さおり

参観の概要

<p>代表値（平均、中央値、最頻値）と分布（主に正規分布とべき分布）についての授業であった。最初に、代表値の説明用のプリントが配られた。プリントには、平均値（Mean）、中央値（メディアン）、最頻値（モード）について、計算式を含め、丁寧な説明が書かれていた。分布についても、データと分布の様子が分かるプリントが配布された。さらに、その都度、練習問題のプリントが配布され、それに基づいて授業が進められた。練習問題等の説明については、スライドと白板をバランス良く使い、分かりやすく説明されていた。なかでも、次の点がすばらしいと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・丁寧に学生一人一人のやり方を観察し、適宜・適切な指導をする、個に応じた指導、学生にとっては個別最適な学習が行われていた。</li> <li>・ネットのサイトからデータを収集、課題や新たなデータ等のメールを介しての通信等、情報機器の有効活用が図られていた。</li> <li>・課題提示の明確さと北浦先生の発音の明瞭さが授業をより分かりやすくしていた。</li> <li>・学生は分からないところがあれば気軽に手を挙げ質問しており、教師と学生の良好な関係が見て取れた。</li> </ul>
--

自分の講義の改善点

<ol style="list-style-type: none"> <li>① 授業は教材研究が何よりも大切で、今回の授業を拝見し、資料の作成や課題の提示、説明の仕方等、周到な準備に支えられていることを改めて感じた。</li> <li>② 学生に個別最適な学習を提供するためには、一人一人の学習状況を把握し、習熟度に応じた配布資料の作成や個に応じた指導の在り方を追求しなければならないと感じた。</li> <li>③ 学生が授業中、気軽に質問ができるよう、学生との距離感、人間関係を大切にしたい授業を心がけなければならないと感じた。</li> <li>④ 教師の説明、板書とスライドとのバランス、発音の明瞭さを意識した授業の重要性を改めて感じた。</li> <li>⑤ 情報機器の活用は授業改善に必須であり、抵抗なく使えるよう努力しなければならない。</li> </ol>
---

教員相互参観報告書

2023年 月 日

参 観 者 氏 名	和田佐英子
参 観 日 ・ 時 限	12月 20 日 3 時限
科 目 名	労働経済学
担 当 教 員 名	今 喜史

参観の概要

今回の講義のテーマは、『労働組合』であった。今先生の「労働経済学」の講義の目的は、①日本の雇用や賃金の動向について理解し、基本的なデータの意味を正しく解釈することができる。②非正規雇用の増加や賃金格差の拡大など日本の労働経済をめぐる現象について知識をもち、何が問題となっているのかを経済学に基づいて説明することができる。この2点である。現実の経済現象をデータや制度、経済理論から学生たちが理解できるようになるように講義していくというのは、私の講義の目的にも共通することである。今先生は、この目的を達成するために、どのような努力をしているのかを、学生と同じ視点で参観させていただく機会を得たことによって、私自身の講義にも応用できる様々な学びを提供していただいた。

自分の講義の改善点

今先生は、今回のテーマであった「労働組合」の問題も、現実の仕組み、様々なデータ、制度の枠組み、経済理論的分析等から、複雑な課題を多面的な分析ツールを用いながら、解説していた。まず、参考にしなければならないと思った点は、パワーポイントに出す図表の説明のスピードと、その説明の相互関連性が、大変理解しやすかった。私もたくさんの資料を提示しながら、授業を進めているが、これが独りよがりになっていないか、大いに反省した。また、今先生は、毎回講義の終了前10分間くらいに、講義の振り返りができるような設問をして、学生たちに回答させている。その設問が、講義の振り返りができる良問だと感じた。前回は今先生の講義を相互参観させていただいて、この方式を私の授業でも採用したが、形だけになっていないか、反省した。受講者の目線にたった振り返りのできる設問に、私も変更していこうと思っている。

教員相互参観報告書

2023年 12月 4日

参 観 者 氏 名	大石和博
参 観 日 ・ 時 限	12月 4日 2時限
科 目 名	都市と交通 I
担 当 教 員 名	古池弘隆

参観の概要

<p>授業の流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 聴講カード（前回授業にて回収）による質問・感想への回答が丁寧に行われた。</li> <li>2. 2000年以降のLRT政治問題化による混乱について新聞・パンフレット等により説明があった。             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 新交通検討「5年凍結」、政治的な決断（2012年）、LRT導入計画の本格化（2014年）、LRT事業を国が認定（2016年）など</li> </ul> </li> <li>3. 今後の課題について説明があった。             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ トランジットセンターの整備、バス路線の再編と地域内交通との接続、JR宇都宮駅西口への延伸など</li> </ul> </li> </ol>
---

自分の講義の改善点

<p>授業冒頭にて、聴講カード（前回授業にて回収）による質問・感想への回答が丁寧に行われていた。質問・感想がスクリーンに投影され、出席者全員に共有されていた。授業への関心が高まるとともに前回の授業の復習にもなり、大変参考になった。</p> <p>歴史的経緯を説明する際、新聞紙面が活用されており、大変分かりやすかった。</p> <p>以上の点を今後活かしていきたい。</p>
---

教員相互参観報告書

2023年11月22日

参 観 者 氏 名	松田勇一
参 観 日 ・ 時 限	11月 22日 4時限
科 目 名	管理会計論
担 当 教 員 名	薄井浩信

参観の概要

<p>聴講カードの配布</p> <p>直接原価計算のテキスト問題の確認。「もし自分が会社の会計担当だったらどうするか？」を学生に問い掛け。練習問題のプリントを配布した後、やり方を板書で指示。黒板全面を利用して計算方法を明示する。「月初製品棚卸高」「当月製品製造原価」「月末製品棚卸高」「売上総利益」「販売費及び一般管理費」「営業利益」等の用語を板書し、学生に回答するように指示して机間巡視。問題の解き方のポイントを説明（ヒントを提示）。「変動売上原価」「変動製造マージン」「変動販売費」「貢献利益」等も説明。計算の仕方を板書しながら説明。机間巡視して個別に指導。全部原価計算と直接原価計算によって、損益計算書を作成する。「全一直＝末一初」の計算式を説明する。問題プリントを配布し、再度計算方法の確認。</p>
--

自分の講義の改善点

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題の解き方を丁寧に説明すること。</li> <li>・ 板書で解法を明示すること。</li> <li>・ 板書を示しながら、問題のポイントを解説すること。</li> <li>・ 時間を空けて、ヒントを提示すること。</li> <li>・ 机間巡視して、丁寧に個別指導すること。</li> </ul>
---

教員相互参観報告書

2023年12月21日

参 観 者 氏 名	高丸 圭一
参 観 日 ・ 時 限	12月21日（木）2時限
科 目 名	現代社会論
担 当 教 員 名	小浜 駿

参観の概要

<p>*ゼミ調査研究にかかわるアンケート調査〈15分〉</p> <p>*資料配布と前回のまとめ〈10分〉</p> <p>*ミニレポート（公的年金の在り方について考えを述べる）〈10分〉</p> <p>*第13回イデオロギー（2）〈55分〉</p> <p>    **政府の大きさ</p> <p>    **民営化で生じること</p> <p>    **北欧との比較</p> <p>    **大きな（小さな）政府の功罪</p> <p>    **国家の在り方を考えるうえで</p>
--

自分の講義の改善点

<p>参観した講義では、学生が前回提出した課題に対して詳細にコメントしたプリントを配布するという方法でインタラクティブな講義運営が行われていた。学生の課題に対する意欲を増幅させる効果があると考えられるので、参考にしていきたい。</p> <p>遅刻してくる学生や途中でうろうろしている学生、イヤホンを耳につけたまま受講しているが想像以上に多いことに気づいた。講義をする際に学生の動きをすべてチェックすることは難しく、講義内容の時間配分はシラバスで規定しているため、受講態度の指導に割ける時間も限られているが、自らの講義において学生の受講姿勢についてより注意を払うように心がける。</p>
--

## 教員相互参観報告書

2023年12月6日

参 観 者 氏 名	薄井 浩信
参 観 日 ・ 時 限	12 月 6 日 1 時限
科 目 名	シティライフとまちづくり
担 当 教 員 名	陣内 雄次

### 参観の概要

<p>1年生の配当科目である「シティライフとまちづくり」の講義を参観させていただきました。今回（第12回）の講義の概要は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義前に着座図の提示</li> <li>・ GFを利用した出欠確認</li> <li>・ 相互評価テストの返却</li> <li>・ 今後の講義の予定と諸連絡等（発表関係）</li> <li>・ 前回の振り返り</li> <li>・ まちづくり CL とローカル経済、まちづくりと CL と環境共生                  ネコヤドの動画、グループディスカッション、ホワイトボードへの記入                  真岡市門前地区の事例紹介、考察、宇都宮大学の事例紹介</li> <li>・ ミニテストの記入</li> </ul>
---

### 自分の講義の改善点

<p>講義の始まる前に、グループディスカッションの着座図が提示されており、講義中の移動等がスムーズに展開する準備をしていることが勉強になった。また、前回の講義の質問・感想が記入された評価シートの返却を丁寧に行われていることが参考になった。</p> <p>グループごとにグループディスカッションを取り入れており、グループで話し合われた内容をそれぞれグループごとにホワイトボードに記入させることにより、出席者全員での共有がなされていたことが勉強になった。</p> <p>鹿沼市のネコヤド、真岡市の門前地区、宇都宮大学などの多くの具体的事例について講義の中で紹介しており、また、ICT教材を有効に活用しており、講義内容への関心・意欲を高めていたことが大変参考になった。</p> <p>以上のことから、①より一層、教材研究に努めること、②身近な具体的事例を多く取り入れて、学生の関心・意欲を高めるような講義を展開すること、③ICTを活用した効果的な指導方法を取り入れていくこと、について取り組んでいきたい。</p>
---

教員相互参観報告書

2023年 9月 28日

参 観 者 氏 名	北浦 さおり
参 観 日 ・ 時 限	9月 28日 2時限
科 目 名	教育原理
担 当 教 員 名	田上 富男

参観の概要

「教育思想の変遷②近代から現代」について講義が行われた。1. 18・19 世紀の教育思想：この時代の社会の変化を踏まえて、ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルトの教育論を取り上げ比較することで、複数の視点から教育について考察した。幼児教育という概念の始まりから、幼児教育において重視する考えの深まりと幼児教育の機関（幼稚園）の設立、教授法の概念化・理論化までを扱った。それぞれの教育論について、問いが用意されており、個人で考える、ペアで議論する、調べるという3つの方法を用いて、受講生が学習できるシステムになっていた。2. 新教育運動と教育論：新教育運動について、その発生の背景と中心となる考え方、現在の学校教育との関連性などについて学んだ。具体的な教育法として、モンテッソーリ教育とデューイの教育論を取り上げて説明が行われた。

自分の講義の改善点

- ① 授業開始時の出席人数を確認し、学生にも衆知することで、途中退席を防ぐ対策をとる。
- ② プレゼンテーションと配布資料の情報を簡潔にし、フォントサイズも大きく、読みやすくわかりやすいものにする。
- ③ 授業の中で、学生が自ら考えたり、調べたり、文章にしたりするための設問がいくつか用意されていて、授業への積極的な参加と学習を促しており、とても参考になった。
- ④ 設問の回答を指名して参加者全員に答えてもらうことで、授業に参加させている。全員が自分なりに考えた答えを発表するたびに、優しくフォロー、お礼を言いながら受け止めていた。学生への対応がとても参考になった。
- ⑤ 遅刻してきた学生に対しても、設問の説明を再度行うなど、学生が授業内容を理解するための手助けを積極的に行っていた点も勉強になった。
- ⑥ ペアでの議論も取り入れることで、理論の授業にリズムを持たせ、学生が飽きないように工夫している点も勉強になった。全員で議論を深めていくプロセスを先生が助けており、そのやり方が非常に勉強になった。

## 教員相互参観報告書

2023年 月 日

参 観 者 氏 名	小 浜 駿
参 観 日 ・ 時 限	12/21 木曜 3 限
科 目 名	情報システム論
担 当 教 員 名	高丸圭一

### 参観の概要

google classroom を活用し、復習（簡単な確認テスト）を行うことで出席をとっていた。1アクションで2つの教育活動が実施でき、効率的であると感じた。

復習問題は、問題文に記号が付与されており、記号はITパスポートの問題と対応していた。したがって、授業を受けることが資格取得に直接繋がっていた。正課の授業から課外学修への導線がスムーズに構築されており、非常に優れた授業設計であると考えられる。

また、google フォームのテスト機能を活用していた。おそらく、使ったことのある人にとって当たり前の機能（ボタン）が多かったのだと思われるが、機能を利用している現場を目の当たりにすることで、自分でも使えそうだと感じ、機能利用への動機づけが高まった。

### 自分の講義の改善点

記入者の専門は資格試験がほぼない領域であるが、正課から課外への導線は、参考にすべき視点であると感じた。

また、単に出席をとるだけでなく、復習を兼ねる形式は、新たに授業のシステムに導入することが容易であるにもかかわらず高い教育効果が見込まれるため、ぜひ導入すべきであると感じた。



教員相互参観報告書

2023年 7月 7日

参 観 者 氏 名	今 喜 史
参 観 日 ・ 時 限	7月 7日 1時限
科 目 名	地方財政論I
担 当 教 員 名	和田 佐英子

参観の概要

<p>「地方財政論 I」第 12 回講義を参観した。「課税自主権の行使を中心にして」というタイトルで、地方自治体が独自に制定することのできる税のしくみについて、制度面の解説と実例の紹介を交えたわかりやすい説明がなされた。</p> <p>Google Classroom に事前に掲載された講義資料を教室で配布し、スクリーンにも映しながら講義は進行された。配布資料は約 18 ページに及び、具体的な税目の一覧表や都道府県などが実際に導入している法定外税のリストなどが網羅されており、情報量の多い内容に見受けられた。90 分の時間内に、資料の全ページに対して解説が与えられ、この資料を活用して次回の講義（補講）にてレポートを作成するよう指示がなされた。</p> <p>学生はみな手元の資料を目で追いながら静かに受講しており、教員の説明も落ち着いた明瞭な声であり、きわめて内容に集中しやすい授業環境であった。</p>
---

自分の講義の改善点

<p>筆者の講義と比較して、特に印象に残ったのは配布資料の手厚さと話し方の工夫である。筆者も分野的には近い経済学系の講義を担当しているが、90分の時間内で余裕をもって説明できる内容とするため、配布資料のページ数はあえて少なめを心掛けている。しかし、この選択は資料としての情報量が減ることと隣合わせでもあるため、学生が関心に応じてさらに学びを深めるきっかけを逸してしまうおそれもあることに気づかされた。今後は、配布資料の充実に向けた見直しを行いたい。</p> <p>また、教員の話し方について和田先生は意識的にゆっくり、聞き取りやすいように話されているように思われた。筆者は時としてやや早口になってしまうため、今後は学生の受け取り方をより強く意識して、常に「落ち着いた明瞭な声であるか」に自覚的な講義としたい。</p>
--

## 教員相互参観報告書

2023年 12月12日

参 観 者 氏 名	永井 紹裕
参 観 日 ・ 時 限	12月 12日 2時限
科 目 名	日本経済論
担 当 教 員 名	今 喜史

### 参観の概要

講義はパワーポイントを使用して進められた。まずグループフォーム上で実施されたコメントペーパーについての解説を通して前回の学習の復習を行った。そして、今回の内容に入っていた。学生には、パワーポイント資料を配布し、パワーポイントを用いながら講義が進められた。近時の日本の円安についての問題に言及したうえで、今回のテーマである貿易の話につなげていき、貿易自由化に反対する者が批判とする輸入の是非について、その批判の妥当性を検証していくという流れで説明がなされた。そして、きちんとした知識がない者が見落としがちである輸入を含めた貿易のメリットについて説明したうえで、結局は国内問題がもたらす貿易の自由化が妨げられていることを明らかにして、日本経済論という授業で扱う意義を説明された。最後に今回の復習としてグループフォームを用いたコメントペーパーを学生に提出させ授業を終えた。

### 自分の講義の改善点

自身の授業ではパワーポイントのみで説明を行っていたが、本講義では、パワーポイントと黒板での板書をうまく組み合わせながら説明がされており、ビジュアル的にもとても見やすい授業であり、学生にとって見やすい資料の提供の仕方であって参考になった。

現状のグラフなども適宜用いて具体例を挙げていて、話が入ってきやすい授業であった。また、当該授業で重要となるキーワードを挙げ（今回の授業では「比較優位」「最恵国待遇」など）、説明したうえで、現実の問題についてどのようにその概念が適用されるかについてきちんと示しており、話の一貫性があるため理解しやすい内容であった。さらに、ところどころ話をまとめて理解を確かめてから次の話へ進んでいて、内容的にもゆっくり説明していても一回分の授業で十分収まる内容になっていて、学生としても早くについていけないということにはなかったと思われる。一回の授業の分量、話の進め方、まとめ方など自身の授業のやり方にも参考にできる点が多く、とても有意義な参観になった。

## 宇都宮共和大学FD部会に関する内規

### (設置)

第1条 宇都宮共和大学自己点検・評価推進部会に関する要項第6条の規定に基づき、ファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）を積極的に推進するために、FD部会を置く。

### (目的)

第2条 FD部会は、本学の教育理念を実現することを目的として、教育・研究内容および教育方法の改善、そして個人の能力開発及び組織間の連携を推進し、組織的な職能開発に取り組む。

### (任務)

第3条 FD部会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事項を審議するとともに、組織的な取り組みを推進するための具体的方策を教授会に諮り、決定事項を推進する。

- 一 教育研究活動改善のための立案に関すること。
- 二 FD研修プログラムの開発・実施に関すること。
- 三 FD活動の情報の収集と提供に関すること。
- 四 その他必要な事項

### (組織)

第4条 FD部会は、次の者をもって組織する。

- 一 自己点検・評価委員長が指名する自己点検・評価推進部会の委員若干名をもって組織する。
- 二 FD部会委員の任期は、FD部会長が委員毎に定めるものとする。

### (会議)

第5条 FD部会に部会長を置き、前条第1項第1号の委員をもって充てる。

- 2 FD部会長は、FD部会を招集し、その議長となる。
- 3 FD部会長に事故あるときは、あらかじめFD部会長の指名する者が職務を代行する。
- 4 FD部会が必要と認めたときは、FD部会委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

## 附 則

この内規は、平成28年4月1日から施行する。